



太田市国民保護計画

令和6年5月

太 田 市

目次

第1編 総論.....	1
第1章 市の責務、計画の位置づけ、構成等.....	1
1 市の責務及び太田市国民保護計画の位置づけ.....	1
2 太田市国民保護計画の対象.....	1
3 太田市国民保護計画の構成.....	2
4 太田市国民保護計画の見直し、変更手続.....	2
第2章 国民保護措置に関する基本方針.....	3
第3章 関係機関の事務又は業務の大綱等.....	5
第4章 市の地理的、社会的特徴.....	7
第5章 太田市国民保護計画が対象とする事態.....	13
1 武力攻撃事態.....	13
2 緊急対処事態.....	13
第2編 平素からの備えや予防.....	14
第1章 組織・体制の整備等.....	14
第1 市における組織・体制の整備.....	14
1 市の各部課における平素の業務.....	14
2 市職員の参集基準等.....	17
3 消防機関の体制.....	21
4 住民等の権利利益の救済に係る手続等.....	22
第2 関係機関との連携体制の整備.....	23
1 基本的な考え方.....	23
2 県との連携.....	23
3 近接市町との連携.....	24
4 指定公共機関等との連携.....	25
5 ボランティア団体等に対する支援.....	28
第3 通信の確保.....	28
第4 情報収集・提供等の体制整備.....	29
1 基本的考え方.....	29
2 警報等の伝達に必要な準備.....	31
3 安否情報の収集、整理及び提供に必要な準備.....	32
4 被災情報の収集・報告に必要な準備.....	33

第5	研修及び訓練.....	35
1	研修.....	35
2	訓練.....	36
第2章	避難、救援及び武力攻撃災害への対処に関する平素からの備え.....	38
1	避難に関する基本的事項.....	38
2	避難実施要領のパターンの作成.....	40
3	救援に関する基本的事項.....	40
4	運送事業者の輸送力・輸送施設の把握等.....	40
5	避難施設の指定への協力.....	41
6	生活関連等施設の把握等.....	41
第3章	物資及び資材の備蓄、整備.....	43
1	市における備蓄.....	43
2	市が管理する施設及び設備の整備及び点検等.....	44
第4章	国民保護に関する啓発.....	45
1	国民保護措置に関する啓発.....	45
2	武力攻撃事態等において市民がとるべき行動等に関する啓発.....	45
第3編	武力攻撃事態等への対処.....	47
第1章	初動連絡体制の迅速な確立及び初動措置.....	47
1	緊急事態発生直後の対応.....	47
2	緊急事態発生時の初動体制.....	47
3	武力攻撃等の兆候に関する連絡があった場合の対応.....	48
第2章	市対策本部の設置等.....	49
1	市対策本部の設置.....	49
2	通信の確保.....	63
第3章	関係機関相互の連携.....	65
1	国・県の対策本部との連携.....	65
2	知事、指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長等への措置要請等.....	65
3	自衛隊の部隊等の派遣要請の求め等.....	66
4	他の市町村長等に対する応援の要求、事務の委託.....	66
5	指定行政機関の長等に対する職員の派遣要請.....	67
6	市の行う応援等.....	67
7	ボランティア団体等に対する支援等.....	68
8	住民等への協力要請.....	69
第4章	警報及び避難の指示等.....	70
第1	警報の伝達等.....	70
1	警報の内容の伝達等.....	70
2	警報の内容の伝達方法.....	71
3	緊急通報の伝達及び通知.....	72
第2	避難住民等の誘導等.....	73

1	避難の指示の通知・伝達.....	73
2	避難実施要領の策定	74
3	避難住民等の誘導	77
4	避難住民等の受入れ	80
第5章	救援.....	83
1	救援の実施.....	83
2	関係機関との連携.....	83
3	救援の内容.....	84
4	救援物資等の確保.....	85
第6章	安否情報の収集・提供.....	86
1	安否情報の収集.....	86
2	県に対する報告.....	87
3	安否情報の照会に対する回答.....	87
4	日本赤十字社に対する協力.....	89
第7章	武力攻撃災害への対処.....	90
第1	武力攻撃災害への対処.....	90
1	武力攻撃災害への対処の基本的考え方.....	90
2	武力攻撃災害の兆候の通報.....	90
第2	応急措置等.....	92
1	退避の指示.....	92
2	警戒区域の設定.....	93
3	応急公用負担等.....	94
4	消防に関する措置等.....	95
第3	生活関連等施設における災害への対処等.....	98
1	生活関連等施設の安全確保.....	98
2	危険物質等に係る武力攻撃災害の防止及び防除.....	98
第4	NBCR攻撃による災害への対処等.....	100
1	NBCR攻撃に対する応急措置の実施.....	100
2	汚染原因に応じた対応.....	101
3	国の対策本部等との緊密な連携.....	103
第8章	被災情報の収集及び報告.....	105
第9章	保健衛生の確保その他の措置.....	106
1	保健衛生の確保.....	106
2	廃棄物の処理.....	107
第10章	国民生活の安定に関する措置.....	108
1	生活関連物資等の価格安定.....	108
2	避難住民等の生活安定等.....	108
3	生活基盤等の確保.....	108
4	支援措置の広報.....	109

第11章 特殊標章等の交付及び管理.....	110
第4編 復旧等.....	112
第1章 応急の復旧.....	112
1 基本的考え方.....	112
2 公共的施設の応急の復旧.....	112
第2章 武力攻撃災害の復旧.....	114
第3章 国民保護措置に要した費用の支弁等.....	115
1 国民保護措置に要した費用の支弁、国への負担金の請求.....	115
2 損失補償及び損害補償.....	115
3 総合調整及び指示に係る損失の補てん.....	115
第5編 緊急対処事態への対処.....	117
1 緊急対処事態.....	117
2 緊急対処事態における警報の通知及び伝達.....	117
第6編 首都圏等への支援.....	118

第 1 編 総論

第 1 章 市の責務、計画の位置づけ、構成等

市は、住民等の生命、身体及び財産を保護する責務にかんがみ、国民の保護のための措置を的確かつ迅速に実施するため、以下のとおり、市の責務を明らかにするとともに、市の国民の保護に関する計画の趣旨、構成等について定める。

1 市の責務及び太田市国民保護計画の位置づけ

(1) 市の責務

市（市長及びその他の執行機関をいう。以下同じ。）は、武力攻撃事態等において、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（以下「国民保護法」という。）その他の法令、国民の保護に関する基本指針（平成 17 年 3 月閣議決定。以下「基本指針」という。）及び国民の保護に関する群馬県計画（以下「県国民保護計画」という。）を踏まえ、太田市の国民の保護に関する計画（以下「太田市国民保護計画」という。）に基づき、住民等の協力を得つつ、他の機関と連携協力し、自ら住民等の保護のための措置（以下「国民保護措置」という。）を的確かつ迅速に実施し、その区域において関係機関が実施する国民保護措置を総合的に推進する。

(2) 市国民保護計画の位置づけ

市は、その責務にかんがみ、国民保護法第 35 条の規定に基づき、太田市国民保護計画を作成する。

(3) 太田市国民保護計画に定める事項

太田市国民保護計画においては、その区域に係る国民保護措置の総合的な推進に関する事項、市が実施する国民保護措置に関する事項等国民保護法第 35 条第 2 項各号に掲げる事項について定める。

2 太田市国民保護計画の対象

太田市国民保護計画では、市内に居住する人（外国人居住者を含む）、旅行やビジネスなどで市内に滞在している人、市内を通過中の人など、太田市内の全ての人を対象とし、「住民等」という言葉で表現する。

3 太田市国民保護計画の構成

太田市国民保護計画は、以下の各編により構成する。

- 第1編 総論
- 第2編 平素からの備えや予防
- 第3編 武力攻撃事態等への対処
- 第4編 復旧等
- 第5編 緊急対処事態への対処
- 第6編 首都圏等への支援

4 太田市国民保護計画の見直し、変更手続

(1) 太田市国民保護計画の見直し

太田市国民保護計画については、今後、国における国民保護措置に係る研究成果や新たなシステムの構築、県国民保護計画の見直し、国民保護措置についての訓練の検証結果等を踏まえ、不断の見直しを行う。

太田市国民保護計画の見直しに当たっては、太田市国民保護協議会の意見を尊重するとともに、広く関係者の意見を求めるものとする。

(2) 太田市国民保護計画の変更手続

太田市国民保護計画の変更に当たっては、計画作成時と同様、国民保護法第39条第3項の規定に基づき、太田市国民保護協議会に諮問の上、知事に協議し、太田市議会に報告し、公表するものとする。

ただし、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律施行令（以下「国民保護法施行令」という。）で定める軽微な変更については、太田市国民保護協議会への諮問及び知事への協議は要しない。

第2章 国民保護措置に関する基本方針

市は、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するに当たり、特に留意すべき事項について、以下のとおり、国民保護措置に関する基本方針として定める。

(1) 基本的人権の尊重

市は、国民保護措置の実施に当たっては、日本国憲法の保障する国民の自由と権利を尊重することとし、住民等の自由と権利に制限が加えられるときであっても、その制限は必要最小限のものに限り、公正かつ適正な手続の下に行う。

(2) 住民等の権利利益の迅速な救済

市は、国民保護措置の実施に伴う損失補償、国民保護措置に係る不服申立て又は訴訟その他の住民等の権利利益の救済に係る手続を、できる限り迅速に処理するよう努める。

(3) 住民等に対する情報提供

市は、武力攻撃事態等においては、住民等に対し、国民保護措置に関する正確な情報を、適時に、かつ、適切な方法で提供する。

(4) 関係機関相互の連携協力の確保

市は、国、県、近隣市町村並びに関係指定公共機関及び関係指定地方公共機関と平素から相互の連携体制の整備に努める。

(5) 住民等の協力

市は、国民保護法の規定により国民保護措置の実施のため必要があると認めるときは、住民等に対し、必要な援助について協力を要請する。この場合において、住民等は、その自発的な意思により、必要な協力をするよう努めるものとする。

また、市は、太田市消防団（以下「消防団」という。）及び自主防災組織の充実・活性化、ボランティアへの支援に努める。

(6) 高齢者、障がい者等への配慮

市は、国民保護措置の実施に当たっては、高齢者、障がい者その他特に配慮を要する者の保護について留意する。

また、市は、外国人居住者や旅行者に対しても、国民保護措置の実施について配慮する。

(7) 国際人道法の的確な実施

市は、国民保護措置を実施するに当たっては、国際的な武力紛争において適用される国際人道法の的確な実施を確保する。

(8) 指定公共機関及び指定地方公共機関の自主性の尊重

市は、指定公共機関及び指定地方公共機関の国民保護措置の実施方法については、指定公共機関及び指定地方公共機関が武力攻撃事態等の状況に即して自主的に判断するものであることに留意する。

(9) 国民保護措置に従事する者等の安全の確保

市は、国民保護措置に従事する者の安全の確保に十分に配慮するものとする。

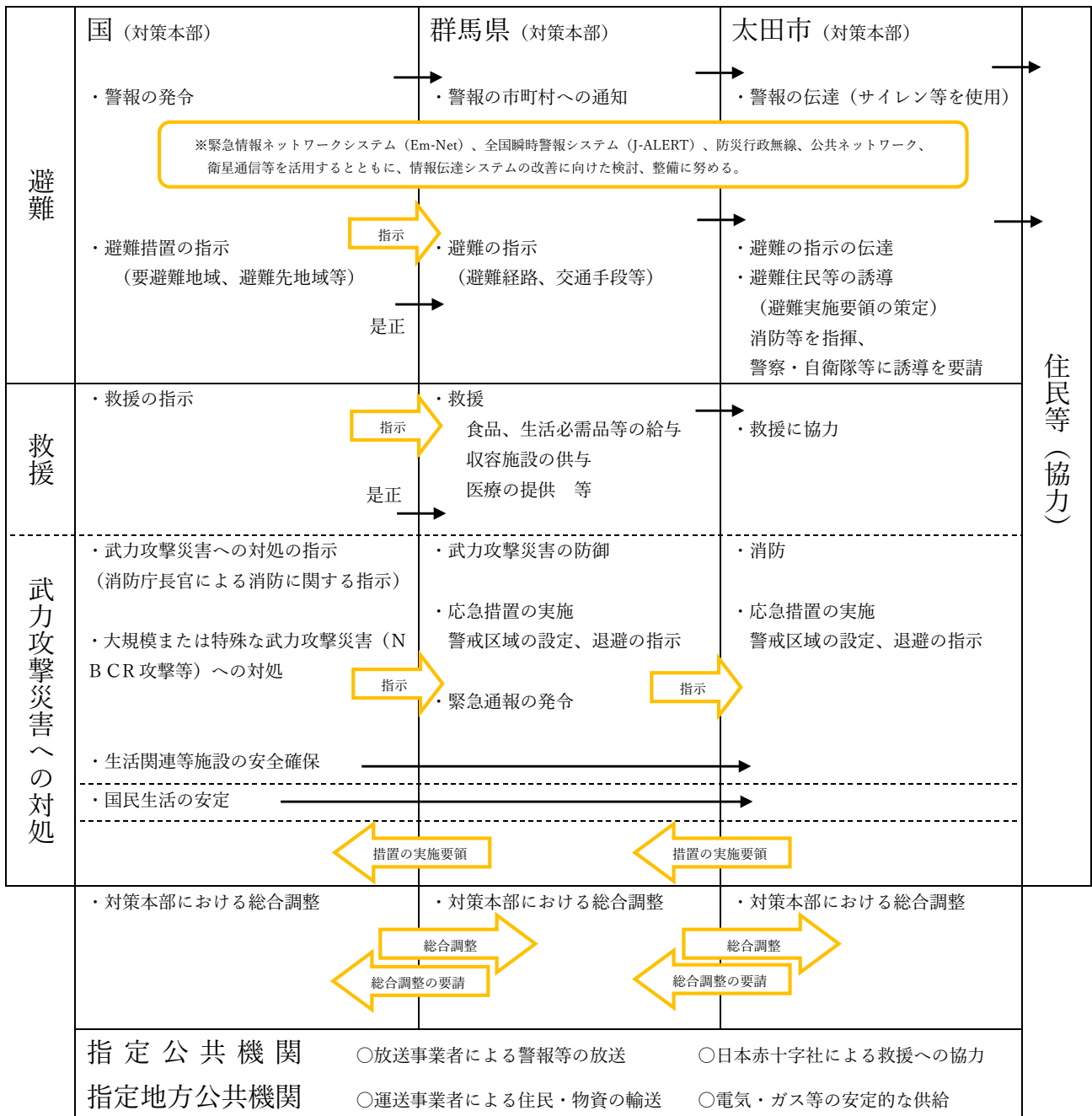
また、要請に応じて国民保護措置に協力する者に対しては、その内容に応じて安全の確保に十分に配慮する。

第3章 関係機関の事務又は業務の大綱等

市は、国民保護措置の実施に当たり関係機関との円滑な連携を確保できるよう、国民保護法における市の役割を確認するとともに、関係機関の連絡窓口をあらかじめ把握しておく。

【国民保護措置の全体の仕組み】

国民の保護に関する措置の仕組み



—————国、地方公共団体、指定公共機関等が相互に連携—————

○市の事務

名 称	事務又は業務の大綱
太 田 市	<ol style="list-style-type: none"> 1 太田市国民保護計画の作成 2 太田市国民保護協議会の設置、運営 3 太田市国民保護対策本部及び緊急対処事態対策本部の設置、運営 4 組織の整備、訓練 5 警報の伝達、避難実施要領の策定、避難住民等の誘導、関係機関との調整その他の住民等の避難に関する措置の実施 6 救援の実施、安否情報の収集及び提供その他の避難住民等の救援に関する措置の実施 7 退避の指示、警戒区域の設定、消防、廃棄物の処理、被災情報の収集その他の武力攻撃災害への対処に関する措置の実施 8 水の安定的な供給その他の住民等の生活の安定に関する措置の実施 9 武力攻撃災害の復旧に関する措置の実施

第4章 市の地理的、社会的特徴

市は、国民保護措置を適切かつ迅速に実施するため、その地理的、社会的特徴等について確認することとし、以下のとおり、国民保護措置の実施に当たり考慮しておくべき市の地理的、社会的特徴等について定める。

(1) 地形

太田市は、関東平野の北部、群馬県南東部に位置し（東経 139 度、北緯 36 度）、北は桐生市・みどり市に隣接しており、南は埼玉県深谷市・熊谷市、東は邑楽町・大泉町・栃木県足利市、西は伊勢崎市に面している。また、東京から北西へ約 86km の距離にあり、北関東自動車道が北部地域を通過して関越自動車道、東北自動車道と接続し、東武鉄道によって東京と接続している。南部に利根川、北部には渡良瀬川が流れており、標高 239m の金山と八王子丘陵が北西部を走るほかは、おおむね平坦な地形となっている。

市の北東部では金山丘陵、八王子丘陵が海拔 230m～260m をもって連なり、西部、南部、東部は関東平野に通じてひらけ、休泊堀用水、新田堀用水、岡登用水、八瀬川、蛇川、聖川、大川、高寺川、石田川、早川等の中小河川が南北縦走し、利根川に流入している。



太田市地形図

(2) 気候

太田市の気候条件については、令和3年からの過去5年間における年間平均気温は15.5℃、年間降水量の平均は1,035mmとなっている（出典：統計おおた令和4年版）。例年12月から翌年5月にかけて北西の季節風が吹き乾燥する。夏季は気温が高く熱雷が発生し、霧はまれである。

気象災害の面では、台風及び梅雨前線による風水害が主となっているが、その他局地的に晩霜や降雹の自然災害が発生する。

気候の特徴と発生が多い気象災害については、次のとおりである。

◇冬期（12月～2月）

概して西高東低の冬型の気圧配置が続く時期で、北西季節風が主であり、晴天の日が多く雨量は少なく乾燥する。

この時期は、災害の少ない時期であるが、異常乾燥により火災の発生が多く、時には強風被害がある。

◇春期（3月～5月）

移動性の高気圧に支配される時期で、気象の変化は早く、降水回数も増してくる。前半は北西季節風が強く、この時期の災害として最も顕著なものは凍霜害であるが、突風による風害も多く、雹害もある。

◇梅雨期（6月～7月中旬）

本州付近に前線が停滞しがちで曇雨天が続き、雷雨の発生が多くなり、末期には大雨となることがある。

この期間の災害としては、水害が多くなり、雹害の発生も多い。また、雷を伴った突風害もあり、さらに台風が接近することもある。

◇盛夏期（7月下旬～8月）

夏型の安定した天気が続き、猛暑日となる日も多い。地面付近の気温が高いことから大気的不安定な状況となりやすく、雷雨の発生が多い。この時期の災害としては、台風の接近回数が次第にまして被害をもたらすことがあるが、落雷被害や水害も多い。雹害は、梅雨期よりも少なくなり、小雨高温により干害の発生することもある。

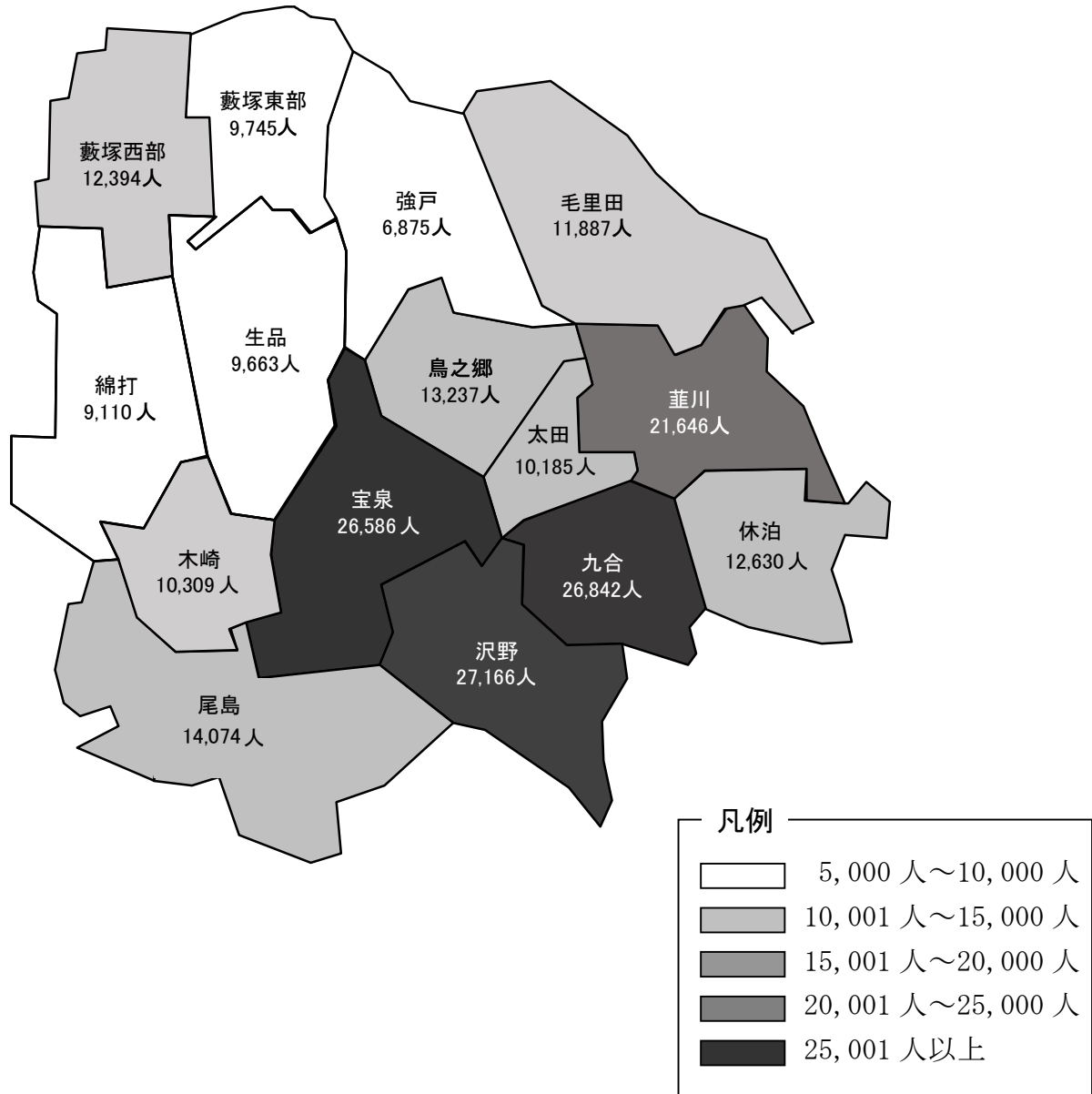
◇秋期（9月～11月）

残暑型から秋霜をへて後半移動性高気圧型となる。

台風が本州に接近する回数が最も多いのがこの時期である。したがって災害は風水害が主たるもので、大被害を起こす事例が多い。11月に入ると気象災害は少なくなる。

(3) 人口分布

人口は、市の中央部九合地区、沢野地区、宝泉地区に集中しており、市役所周辺の人口が多くなっている。



太田市地区別人口（令和6年3月31日現在）

(4) 道路の位置等

道路は、東西に延びて邑楽町及び伊勢崎市に繋がっている主要地方道前橋館林線、南北には、市の西端を走る大間々尾島線があり、市内中心部には、国道407号、国道354号がある。市の北東方向には、茨城県水戸市及び前橋市を結ぶ国道50号が走っており、市の北部には北関東自動車道が走っている。



太田市内主要道路状況

(5) 鉄道の位置等

鉄道は、私鉄である東武鉄道が、東西、南北にのびており、それぞれ、足利市、伊勢崎市、桐生市、大泉町を結んでいる。

また、市内には9の駅があり、そのうち有人駅は6駅である。



太田市内鉄道状況

第5章 太田市国民保護計画が対象とする事態

太田市国民保護計画においては、以下のとおり県国民保護計画において想定されている武力攻撃事態及び緊急処理事態を対象とする。

1 武力攻撃事態

太田市国民保護計画においては、武力攻撃事態として、県国民保護計画において想定されている事態を対象とする。

なお、県国民保護計画においては、以下に掲げる4類型について、発生の可能性が高いと想定している。

- ① ゲリラや特殊部隊による攻撃
- ② 弾道ミサイル攻撃
- ③ 着上陸侵攻
- ④ 航空攻撃

2 緊急処理事態

太田市国民保護計画においては、緊急処理事態として、県国民保護計画において想定されている事態を対象とする。

(1) 攻撃対象施設等による分類

- ①危険性を内在する物質を有する施設等に対する攻撃

放射性同位元素等使用施設の占拠、核燃料を輸送中の車両の奪取、オイルタンクなどの爆破

- ②多数の人が集合する施設、大量輸送機関等に対する攻撃

行政庁舎・自衛隊施設の爆破、ターミナル駅・大量輸送機関の爆破、大規模集客等施設の爆破、学校・病院・行政機関の占拠

(2) 攻撃手段による分類

- ①破壊の手段として交通機関を用いた攻撃

行政庁舎などに対する航空機による自爆テロ

- ②多数の人を殺傷する特性を有する物質等による攻撃

行政庁舎・駅・大規模集客等施設に対するBCR兵器による攻撃、浄水場への毒物混入

第2編 平素からの備えや予防

第1章 組織・体制の整備等

第1 市における組織・体制の整備

【関係課、消防機関】

市は、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、国民保護措置の実施に必要な組織及び体制、職員の配置及びサービス基準等の整備を図る必要があることから、以下のとおり、各部局の平素の業務、職員の参集基準等について定める。

1 市の各部課における平素の業務

市の各部課等は、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、その準備に係る業務を行う。

【市の各部課等における平素の業務】

部・室	課	平素の業務
総務部	危機管理室	<ul style="list-style-type: none">・太田市国民保護協議会の運営に関する事・太田市国民保護対策本部に関する事・避難実施要領の策定に関する事・物資及び資材の備蓄等に関する事・国民保護措置についての訓練に関する事・観光施設、大規模集客施設等における保護措置の実施体制の整備に関する事・職員の動員に関する事・住民等に対する警報の内容の伝達及び緊急通報の内容の伝達に関する事
	総務課 財政課 管財課 契約検査課 市民税課 資産税課 収納課 選挙管理委員会事務局	<ul style="list-style-type: none">・特殊標章等の交付等に関する事・災害車両の指定に関する事・救助用臨時電話に関する事・調査班の応援体制の整備に関する事

部・室	課	平 素 の 業 務
消防本部	消防総務課 予防課 警防課 救急課 通信指令課 中央消防署 東部消防署 西部消防署 大泉消防署	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武力攻撃災害への対処に関すること （救急・救助を含む。） ・ 住民等の避難誘導に関すること
秘書室	秘書室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護措置実施時における本部長及び副本部長の秘書体制の整備に関すること
企画部	企画政策課 おおた PR 戦略課 国際課 情報管理課 広報課 行革推進課 人事課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人の安否情報の収集体制の整備に関すること ・ 外国人に対する警報の内容の伝達及び緊急通報の内容の伝達に関すること ・ 外国人に対する支援体制の整備及び啓発に関すること
市民生活部	市民そうだん課 市民課 交通対策課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安否情報の収集体制の整備に関すること ・ 復旧に関すること ・ 避難施設の運営体制の整備に関すること
地域振興部	地域総務課 各地区振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民相談の体制に関すること ・ 安否情報の整理等情報活動の支援に関すること
文化スポーツ部	文化スポーツ総務課 スポーツ振興課 スポーツ学校担当 スポーツ施設管理課 文化課 学習文化課 美術館・図書館 西複合施設 芸術学校担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本庁、各地域との連絡体制の整備に関すること

部・室	課	平 素 の 業 務
福祉こども部	社会支援課 障がい福祉課 長寿あんしん課 こども課 子育てそうだん課 児童施設課 社会福祉法人監査室	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者その他特に配慮を要する者の安全確保及び支援体制の整備に関すること ・児童の安全確保、支援体制の整備及び啓発に関すること ・安否情報の整理等情報活動の整備に関すること
健康医療部	健康づくり課 国民健康保険課 医療年金課 介護サービス課	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、救急体制、医薬品等の供給体制の整備に関すること ・医療ボランティアの受入れ体制の整備に関すること
産業環境部	産業政策課 観光交流課 環境対策課 脱炭素推進室 清掃事業課	<ul style="list-style-type: none"> ・商工業団体との連携整備に関すること ・廃棄物処理に関すること ・被災地の環境維持に関すること
農政部	農業政策課 農村整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・農業団体との連携整備に関すること
農業委員会事務局	農業委員会事務局	
都市政策部	都市計画課 建築指導課 市街地整備課 まちづくり推進課 道路整備課 道路保全課 建築住宅課 下水道課	<ul style="list-style-type: none"> ・被害調査体制の整備に関すること ・復旧に関すること ・道路、河川の被害状況把握体制の整備に関すること ・土木建設業者の協力体制の整備に関すること ・し尿処理体制の整備に関すること

部・室	課	平 素 の 業 務
行政事業部	事業管理課 花と緑の課 用地企画課	・安否情報の整理等情報活動の整備に関する こと ・行政事業部管理施設、公園の被害状況把握 体制の整備に関すること
教育部	教育総務課 学校施設管理課 文化財課 生涯学習課 学校教育課 市立太田高校	・児童及び生徒の安全確保、支援体制の整備 及び啓発に関すること ・安否情報の整理等情報活動の整備に関する こと ・児童及び生徒の安全確保、支援体制の整備 及び啓発に関すること ・安否情報の整理等情報活動の整備に関する こと
議会事務局	議会総務課	・他の部の応援体制の整備に関すること
監査委員事務局	監査委員事務局	・他の部の応援体制の整備に関すること
会計課	会計課	・災害時の出納に関する体制の整備に関する こと
太田市外三町広域清掃組合		・廃棄物処理体制の整備に関すること
群馬東部水道企業団		・給水体制の整備に関すること

※ 国民保護に関する業務の総括、各部課室間の調整、企画立案等については、危機管理監及び危機管理室が行う。

2 市職員の参集基準等

(1) 職員の迅速な参集体制の整備

市は、武力攻撃災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合の初動対応に万全を期するため、武力攻撃事態等に対処するために必要な職員が迅速に参集できる体制を整備する。

(2) 24時間即応体制の確立

市は、武力攻撃等が発生した場合において、事態の推移に応じて速やかに対応する必要があるため、太田市消防本部（以下「消防本部」という。）との連携を図り

つつ当直等の強化を行うなど、速やかに市長及び国民保護担当職員に連絡が取れる24時間即応可能な体制を確保する。

【市における24時間体制の確保について】

(1) 市部局での対応充実

消防本部との連携を図りつつ、当直等の強化（守衛及び民間警備員が当直を行い、速やかに市長及び危機管理室職員へ連絡が取れる体制も含む。）を図るなど、24時間即応可能な体制を整備する。この場合、初動時において迅速に連絡が取れる体制の整備を行う。

(2) 消防本部との連携強化

危機管理室と消防本部との一体化を含めた連携を強化し、特に、最終責任者である市長へ迅速に連絡でき、早急に市の組織をあげて対応できる体制の整備を行う。

また、消防本部より住民への初動連絡ができるよう、防災行政無線を常備消防機関に設置する。

(3) 市の体制及び職員の参集基準等

市は、事態の状況に応じて適切な措置を講ずるため、下記の体制を整備するとともに、その参集基準を定める。

その際、市長の行う判断を常時補佐できる体制の整備に努める。

(4) 市内で緊急事態が発生した場合の対応

市内で死傷者が発生し、建物などが破壊されるような緊急事態が発生した場合、その原因が明らかになるまでには、時間がかかることもある。この場合、原因が明らかになるまでの間、国民保護業務担当課は情報収集などに努めることとするが、被害の状況に応じて、「太田市地域防災計画」（以下「市防災計画」という。）に基づく「太田市災害対策本部」（以下「市災害対策本部」という。）又は「太田市災害警戒本部」（以下「市災害警戒本部」という。）を設置して対応する。

その後、国において武力攻撃の認定が行われ、閣議に基づいて国民保護対策本部設置の指定が通知（以下「本部設置指定」という。）されれば、直ちに「太田市国民保護対策本部」（以下「市対策本部」という。）に移行して国民保護措置を実施する。

なお、本部設置指定前は、「太田市国民保護準備本部」（以下「市準備本部」という。）を設置して、情報収集などを実施する。

(5) 市外で武力攻撃が発生した場合の対応

日本国内で武力攻撃が発生し、国において事態認定が行われた場合でも、市内で発生する可能性が低いと判断される場合は、「太田市国民保護情報連絡室」を設置し、国民保護業務担当課で情報収集などを実施する。

しかし、市内でも武力攻撃が発生した場合や発生のおそれがあると認められる場合は、本部設置指定により、直ちに市対策本部を設置して国民保護措置を実施する。

なお、本部設置指定前は、市準備本部を設置して、情報収集などを実施する。

【職員参集基準】

体制	参集基準
①市地域防災計画による体制	市地域防災計画による参集基準
②市国民保護情報連絡室体制	国民保護業務担当職員が参集 危機管理室、道路整備課、道路保全課、 各地区振興課、教育総務課、学校教育課
③市国民保護準備本部体制	全ての職員が市役所等に参集
④市国民保護対策本部体制	全ての職員が市役所等に参集

【事態の状況に応じた初動体制の確立】

事態の状況		体制の判断基準	体制
市内で 緊急事態が 発生	事態認定前	原因が不明確な状況で発生した緊急事態 (未確認情報等)	①
		市地域防災計画による体制が適用できない場合 (緊急事態の原因が武力攻撃であることが確実な場合 など)	③
	事態認定後	国民保護対策本部設置が閣議決定されていない場合	③
		国民保護対策本部設置の指定を受けた場合	④

市外で武力攻撃が発生 (事態認定後)	市外で武力攻撃が発生し、警報の通知を受けた場合	②
	市内でも、武力攻撃が発生したが、国民保護対策本部設置の指定が閣議決定されていない場合	③
	国民保護対策本部設置の指定の通知を受けた場合	④

(6) 幹部職員等への連絡手段の確保

市の幹部職員及び国民保護担当職員は、常時、参集時の連絡手段として、携帯電話等を携行し、電話・メール等による連絡手段を確保する。

(7) 幹部職員等の参集が困難な場合の対応

市の幹部職員及び国民保護担当職員が、交通の途絶、職員の被災などにより参集が困難な場合等も想定し、あらかじめ、参集予定職員の次席の職員を代替職員として指定しておくなど、事態の状況に応じた職員の参集手段を確保する。

なお、市対策本部長、市対策副本部長及び市対策本部員の代替職員については、以下のとおりとする。

【市対策本部長、市対策副本部長及び市対策本部員の代替職員】

名称	代替職員（第1順位）	代替職員（第2順位）	代替職員（第3順位）
市対策本部長 (市長)	副市長	危機管理監 (総務部長)	消防長
市対策副本部長 (副市長)	危機管理監 (総務部長)	消防長	副危機管理監 (総務部副部長)
市対策本部員 (各部長)	各部副部長若しくは本部連絡員		

(8) 職員の服務基準

市は、(5)①～④の体制ごとに、参集した職員が行うべき所掌事務を定める。

(9) 交代要員等の確保

市は、防災に関する体制を活用しつつ、市対策本部を設置した場合においてその機

能が確保されるよう、以下の項目について定める。

- 交代要員の確保その他職員の配置
- 食料、燃料等の備蓄
- 自家発電設備の確保
- 仮眠設備等の確保 等

3 消防機関の体制

(1) 消防本部及び消防署における体制

消防本部及び消防署は、市における参集基準と同様に初動体制を整備するとともに、職員の参集基準を定める。その際、市は、消防本部及び消防署における24時間体制の状況を踏まえ、特に初動時における消防本部及び消防署との緊密な連携を図り、一体的な国民保護措置が実施できる体制を整備する。

(2) 消防団の充実・活性化の推進等

市は、消防団が避難住民等の誘導などに重要な役割を担うことにかんがみ、県と連携し、地域住民の消防団への参加促進、消防団に係る広報活動、全国の先進事例の情報提供、施設及び設備の整備の支援等の取組みを積極的に行い、消防団の充実・活性化を図る。

また、市は、県と連携し、消防団に対する国民保護措置についての研修を実施するとともに、国民保護措置についての訓練に消防団を参加させるよう配慮する。

さらに、市は、消防本部及び消防署における参集基準等を参考に、消防団員の参集基準を定める。

4 住民等の権利利益の救済に係る手続等

(1) 住民等の権利利益の迅速な救済

市は、武力攻撃事態等の認定があった場合には、国民保護措置の実施に伴う損失補償、国民保護措置に係る不服申立て又は訴訟その他の住民等の権利利益の救済に係る手続を迅速に処理するため、住民等からの問い合わせに対応するための総合的な窓口を開設し、手続項目ごとに以下のとおり行う。

また、必要に応じ外部の専門家等の協力を得ることなどにより、住民等の権利利益の救済のため迅速に対応する。

【住民等の権利利益の救済に係る手続項目一覧】

法・・・「国民保護法」

損失補償 (法第 159 条第 1 項)	特定物資の収用に関する事。 (法第 81 条第 2 項)
	特定物資の保管命令に関する事。 (法第 81 条第 3 項)
	土地等の使用に関する事。 (法第 82 条)
	応急公用負担に関する事。 (法第 113 条第 1 項・5 項)
損害補償 (法第 160 条)	住民等への協力要請によるもの (法第 70 条第 1・3 項、80 条第 1 項、115 条第 1 項、123 条第 1 項)
不服申立てに関する事。 (法第 6 条、175 条)	
訴訟に関する事。 (法第 6 条、175 条)	

(2) 住民等の権利利益に関する文書の保存

市は、住民等の権利利益の救済の手続に関連する文書（公用令書の写し、協力の要請日時、場所、協力者、要請者、内容等を記した書類等）を、市文書管理規程等の定めるところにより、適切に保存する。また、住民等の権利利益の救済を確実にを行うため、武力攻撃災害による当該文書の逸失等を防ぐために、安全な場所に確実に保管する等の配慮を行う。

市は、これらの手続に関連する文書について、武力攻撃事態等が継続している場合及び国民保護措置に関して不服申立て又は訴訟が提起されている場合には保存期間を延長する。

第2 関係機関との連携体制の整備

【危機管理室、消防機関】

市は、国民保護措置を実施するに当たり、国、県、他の市町村、指定公共機関、指定地方公共機関その他の関係機関と相互に連携協力することが必要不可欠であるため、以下のとおり、関係機関との連携体制整備のあり方について定める。

1 基本的な考え方

(1) 防災のための連携体制の活用

市は、武力攻撃事態等への効果的かつ迅速な対応ができるよう、防災のための連携体制も活用し、関係機関との連携体制を整備する。

特に、市及び消防本部は、武力攻撃が発生した場合、「火災・災害等即報要領」（昭和59年10月15日付け消防災第267号消防庁長官）（以下「即報要領」という。）に基づき、県及び総務省消防庁へ報告する。

(2) 関係機関の計画との整合性の確保

市は、国、県、他の市町村、指定公共機関及び指定地方公共機関その他の関係機関の連絡先を把握するとともに、関係機関が作成する国民保護計画及び国民保護業務計画との整合性の確保を図る。

(3) 関係機関相互の意思疎通

市は、個別の課題に関して関係機関による意見交換の場を設けること等により、関係機関相互の意思疎通を図り、人的なネットワークを構築する。この場合において、太田市国民保護協議会の部会を活用すること等により、関係機関の積極的な参加が得られるように留意する。

2 県との連携

(1) 県の連絡先の把握等

市は、緊急時に連絡すべき県の連絡先及び担当部署（担当部局名、所在地、電話（FAX）番号、メールアドレス等）について把握するとともに、定期的に更新を行い、国民保護措置の実施の要請等が円滑に実施できるよう、県と必要な連携を図る。

(2) 県との情報共有

警報の内容、経路や運送手段等の避難、救援の方法等に関し、県との間で緊密な情報の共有を図る。

(3) 太田市国民保護計画の県への協議

市は、県との太田市国民保護計画の協議を通じて、県の行う国民保護措置と市の行う国民保護措置との整合性の確保を図る。

(4) 県警察との連携

市長は、自らが管理する道路について、武力攻撃事態において、道路の通行禁止措置等に関する情報を道路利用者に積極的に提供できるよう、県警察と必要な連携を図る。

3 近接市町との連携

(1) 近接市町との連携

市は、近接市町の連絡先、担当部署等に関する最新の情報を常に把握するとともに、近接市町相互の国民保護計画の内容について協議する機会を設けることや、防災に関し締結されている市町間の相互応援協定等について必要な見直しを行うこと等により、武力攻撃災害の防御、避難の実施体制、物資及び資材の供給体制等における近接市町相互間の連携を図る。

(2) 消防機関の連携体制の整備

市は、消防機関の活動が円滑に行われるよう、近接市町の消防機関との応援体制の整備を図るとともに、必要により既存の消防応援協定等の見直しを行うこと等により、消防機関相互の連携を図る。また、消防機関のNBC対応可能部隊数やNBC対応資機材の保有状況を相互に把握し、相互応援体制の整備を図る。

【近隣市町】

市町名	住所	担当部署	電話番号
桐生市	桐生市織姫町1番1号	共創企画部 防災・危機管理課	0277-46-1111 (内線415)
伊勢崎市	伊勢崎市今泉町二丁目410番地	総務部安心安全課	0270-27-2706
みどり市	みどり市笠懸町鹿2952番地	危機管理課	0277-76-0960
足利市	足利市本城3丁目2145番地	総務部危機管理課	0284-20-2247

市町名	住所	担当部署	電話番号
熊谷市	熊谷市宮町二丁目 47 番地 1	市長公室 危機管理課	048-524-1111 (内線 333)
深谷市	深谷市仲町 11 番 1 号	総務部総務防災課	048-574-6635
大泉町	邑楽郡大泉町日の出 55 番 1 号	総務部安全安心課	0276-63-3111 (内線 224)
邑楽町	邑楽郡邑楽町大字中野 2570 番地 1	総務課	0276-47-5018
千代田町	邑楽郡千代田町大字赤岩 1859 番地の 1	総務課危機管理室	0276-86-2112

4 指定公共機関等との連携

(1) 指定公共機関等の連絡先の把握

市は、区域内の指定公共機関等との緊密な連携を図るとともに、指定公共機関等の連絡先、担当部署等について最新の情報を常に把握しておく。

指定公共機関関係

(*印は勤務時間外の連絡先)

機 関 名	所 在 地	電 話	備考 (担当部署等)
東日本電信電話(株) 群馬支店	〒370-0829 高崎市高松町 3	027-321-5560 *027-325-7999	災害対策室 FAX:027-330-3008
(株)NTTドコモ 群馬支店	〒370-0829 高崎市高松町 13	027-393-6414	FAX:027-393-6423
東京電力パワーグリッド(株)太田支社	〒373-0026 東本町 56-39	080-5430-9277 *027-898-3646	渉外担当 FAX:22-4111
日本放送協会 前橋放送局	〒371-8555 前橋市元総社町 189	027-251-1711	FAX:027-253-0368
日本赤十字社 群馬県支部	〒371-0833 前橋市光が丘町 32-10	027-254-3636	FAX:027-254-3637
東日本高速道路(株) 関東支社 高崎管理事務所	〒370-0015 高崎市島野町 831	027-353-0211	027-353-0924

指定地方公共機関関係

(*印は勤務時間外の連絡先)

機 関 名	所 在 地	電 話	備考 (担当部署等)
日本郵便(株) 太田郵便局	〒373-8799 飯田町 948	47-0372	総務課 FAX:45-8276
東武鉄道(株)	〒131-8522 東京都墨田区押上 2-18-12	03-5962-2295	安全推進部 FAX:03-5962-2299
		*048-760-0313	運転指令 FAX:048-760-0318
東武鉄道(株) 太田駅	〒373-0026 東本町 16-1	22-3205	
東武鉄道(株) 細谷駅	〒373-0842 細谷町 1169-4	31-8441	
東武鉄道(株) 治良門橋駅	〒373-0006 成塚町 1024	37-0727	
東武鉄道(株) 菑川駅	〒373-0801 台之郷町 1098-2	22-6321	
東武鉄道(株) 木崎駅	〒370-0321 新田木崎町 45	56-1071	
東武鉄道(株) 藪塚駅	〒379-2301 藪塚町字八石 379-2	0277-78-2304	
太田都市ガス(株)	〒373-0853 浜町 17-4	45-4161	総務部 FAX:45-4169
		*45-4019	待機監視室 FAX:48-4199
桐生瓦斯(株)	〒376-0035 桐生市仲町 3-6-32	0277-44-8141	0277-22-0117
(一社)群馬県LP ガス協会太田支部	〒373-0817 飯塚町 1321	46-5985	FAX:46-5974
(一社)群馬県LP ガス協会	〒371-0854 前橋市大渡町 1-10-7	027-255-6121	FAX:027-280-6170
(一社)群馬県トラ ック協会太田支部	〒373-0805 八重笠町 330	48-1720	FAX:48-1720
(一社)群馬県トラ ック協会	〒379-2166 前橋市野中町 595	027-261-0244	総務課 FAX:027-261-7576
待矢場両堰 土地改良区	〒373-0063 鳥山下町 402-1	33-7181	FAX:31-3291
岡登堰土地改良区	〒379-2301 藪塚町 1265	0277-78-4729	FAX:0277-78-4753
藪塚台地土地改良 区	〒379-2301 藪塚町 1867-7	0277-78-5695	FAX:0277-78-5636
世良田土地改良区	〒370-0341 新田金井町 29	20 - 9713	新田庁舎内
佐波新田用水 土地改良区	〒370-0124 伊勢崎市境 1072-2	0270-74-4578	

機 関 名	所 在 地	電 話	備考（担当部署等）
NHK 両毛広域報道室	〒373-0851 飯田町 924-2	48-0912	FAX：48-7303
群馬テレビ(株)	〒371-8548 前橋市上小出町 3-38-2	027-219-0007	報道部 FAX:027-232-0197
(株)エフエム群馬	〒371-8533 前橋市千代田町 2-3-1	027-230-1882 * 027-230-1860	報道部 FAX:027-230-1903
エフエム太郎	〒373-0026 東本町 16-1	30-1111	FAX：30-1112

(2)医療機関との連携

市は、事態発生時に医療機関の活動が速やかに行われるよう消防機関とともに、災害拠点病院（太田記念病院）、救命救急センター、太田市医師会等との連絡体制を確認するとともに平素からの意見交換や訓練を通じて、緊急時の医療ネットワークと広域的な連携を図る。

また、特殊な災害への対応が迅速に行えるよう（財）日本中毒情報センター等の専門的な知見を有する機関との連携に努める。

【医療機関】

名称	住所	電話番号、FAX 番号
S U B A R U健康保険組合 太田記念病院	大島町 455-1	TEL:0276-55-2200 FAX:0276-55-2205
太田市医師会	飯田町 818 (太田市保健センター内)	TEL:0276-48-9291 FAX:0276-48-9293

(3) 関係機関との協定の締結等

市は、関係機関から物資及び資材の供給並びに避難住民等の運送などについて必要な協力が得られるよう、防災のために締結されている協定の見直しを行うなど、防災に準じた必要な連携体制の整備を図る。

また、市は、区域内の事業所における防災対策への取組みに支援を行うとともに、民間企業の有する広範な人的・物的ネットワークとの連携の確保を図る。

5 ボランティア団体等に対する支援

(1) 自主防災組織等に対する支援

市は、自主防災組織及び自治会等のリーダー等に対する研修等を通じて国民保護措置の周知及び自主防災組織等の活性化を推進し、その充実を図るとともに、自主防災組織等相互間、消防団及び市等との間の連携が図られるよう配慮する。また、国民保護措置についての訓練の実施を促進し、自主防災組織等が行う消火、救助、救援等のための施設及び設備の充実を図る。

(2) 自主防災組織以外のボランティア団体等に対する支援

市は、防災のための連携体制を踏まえ、日本赤十字社、社会福祉協議会その他のボランティア関係団体等との連携を図り、武力攻撃事態等においてボランティア活動が円滑に行われるよう、その活動環境の整備を図る。

第3 通信の確保

【危機管理室、消防機関】

<p>市は、武力攻撃事態等において国民保護措置を的確かつ迅速に実施するためには、非常通信体制の整備等による通信の確保が重要であることから、以下のとおり、非常通信体制の整備等について定める。</p>
--

(1) 非常通信体制の整備

市は、国民保護措置の実施に関し、非常通信体制の整備、重要通信の確保に関する対策の推進を図るものとし、自然災害その他の非常時における通信の円滑な運用を図ること等を目的として、関係省庁、地方公共団体、主要な電気通信事業者等で構成された非常通信協議会との連携に十分配慮する。

(2) 非常通信体制の確保

市は、武力攻撃災害発生時においても情報の収集、提供を確実にを行うため、情報伝達ルートが多ルート化や停電等に備えて非常用電源の確保を図るなど、自然災害時における体制を活用し、情報収集、連絡体制の整備に努める。

第4 情報収集・提供等の体制整備

【危機管理室、企画部、福祉こども部】

市は、武力攻撃事態等において、国民保護措置に関する情報提供、警報の内容の通知及び伝達、被災情報の収集・報告、安否情報の収集・整理等を行うため、情報収集・提供等の体制整備のために必要な事項について、以下のとおり定める。

1 基本的考え方

(1) 情報収集・提供のための体制の整備

市は、武力攻撃等の状況、国民保護措置の実施状況、被災情報その他の情報等を収集又は整理し、関係機関及び住民等に対しこれらの情報の提供等を適時かつ適切に実施するための体制を整備する。

(2) 体制の整備に当たっての留意事項

体制の整備に際しては、防災における体制を踏まえ、効率的な情報の収集、整理及び提供や、武力攻撃災害により障害が発生した場合の通信の確保に留意する。

また、非常通信体制の確保に当たっては、自然災害時において確保している通信手段を活用するとともに、以下の事項に十分留意し、その運営・管理、整備等を行う。

施設・設備面	<ul style="list-style-type: none"> ・非常通信設備等の情報通信手段の施設について、非常通信の取扱いや機器の操作の習熟を含めた管理・運用体制の構築を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・武力攻撃災害による被害を受けた場合に備え、複数の情報伝達手段の整備（有線・無線系、地上系・衛星系等による伝送路の多ルート化等）、関連機器装置の二重化等の障害発生時における情報収集体制の整備を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・無線通信ネットワークの整備・拡充の推進及び相互接続等によるネットワーク間の連携を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・武力攻撃災害時において確実な利用ができるよう、国民保護措置の実施に必要な非常通信設備を定期的に総点検する。
運用面	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間・休日の場合等における体制を確保するとともに、平素から情報の収集・連絡体制の整備を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・武力攻撃災害による被害を受けた場合に備え、通信輻輳時及び途絶時並びに庁舎への電源供給が絶たれた場合を想定した、非常用電源を利用した関係機関との実践的通信訓練の実施を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・通信訓練を行うに当たっては、地理的条件や交通事情等を想定し、実施時間や電源の確保等の条件を設定した上で、地域住民への情報の伝達、避難先施設との間の通信の確保等に関する訓練を行うものとし、訓練終了後に評価を行い、必要に応じ体制等の改善を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・無線通信系の通信輻輳時の混信等の対策に十分留意し、武力攻撃事態等非常時における運用計画を定めるとともに、関係機関との間で携帯電話等の電気通信事業用移動通信及び防災行政無線、消防救急無線等の業務用移動通信を活用した運用方法等についての十分な調整を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気通信事業者により提供されている災害時優先電話等の効果的な活用を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員の役割・責任の明確化等を図るとともに、職員担当者が被害を受けた場合に備え、円滑に他の職員が代行できるような体制の構築を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・住民等に情報を提供するに当たっては、防災行政無線、広報車両等を活用するとともに、高齢者、障がい者、外国人その他の情報の伝達に際し援護を要する者及びその他通常の手段では情報の入手が困難と考えられる者に対しても情報を伝達できるよう必要な検討を行い、体制の整備を図る。

(3) 情報の共有

市は、国民保護措置の実施のため必要な情報の収集、蓄積及び更新に努めるとともに、これらの情報が関係機関により円滑に利用されるよう、情報セキュリティー等に

留意しながらデータベース化等に努める。

2 警報等の伝達に必要な準備

(1) 警報の伝達体制の整備

市は、知事から警報の内容の通知があった場合の住民等や関係団体への伝達方法等についてあらかじめ定めておくとともに、住民等や関係団体に伝達方法等の理解が行き渡るよう事前に説明や周知を図る。この場合において、民生児童委員や社会福祉協議会、国際交流協会等との協力体制を構築するなど、高齢者、障がい者、外国人等に対する伝達に配慮する。

(2) 防災行政無線の整備

市は、武力攻撃事態等における迅速な警報の内容の伝達等に必要となる同報系その他の防災行政無線の整備を図る。

(3) 全国瞬時警報システム（J-ALERT）の整備

市は、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を、住民に迅速かつ確実に伝達するため、全国瞬時警報システム（J-ALERT）を整備する。

(4) 県警察との連携

市は、武力攻撃事態等において、住民等に対する警報の内容の伝達が的確かつ迅速に行われるよう、県警察との協力体制を構築する。

(5) 国民保護に係るサイレンの住民への周知

国民保護に係るサイレン音（「国民保護に係る警報のサイレンについて」平成17年7月6日付消防運第17号国民保護運用室長通知）については、訓練等の様々な機会を活用して住民に十分な周知を図る。

(6) 大規模集客施設等に対する警報の伝達のための準備

市は、県から警報の内容の通知を受けたときに市長が迅速に警報の内容の伝達を行うこととなる区域内に所在する学校、病院、駅、大規模集客施設、大規模集合住宅、官公庁、事業所その他の多数の者が利用又は居住する施設について、県との役割分担も考慮して定める。

(7) 民間事業者からの協力の確保

市は、県と連携して、特に昼間人口の多い地域における「共助」の活動の実施が期待される民間事業者が、警報の内容の伝達や住民等の避難誘導などを主体的に実施できるよう、各種の取組みを推進する。

その際、先進的な事業者の取組みをPRすること等により、協力が得られやすくなるような環境の整備に努める。

3 安否情報の収集、整理及び提供に必要な準備

(1) 安否情報の種類及び報告様式

市は、避難住民等及び武力攻撃災害により死亡し又は負傷した住民等の安否情報に関して、原則として武力攻撃事態等における安否情報の収集及び報告の方法並びに安否情報の照会及び回答の手続その他の必要な事項を定める省令（以下「安否情報省令」という。）第1条に規定する様式第1号及び第2号の安否情報収集様式により収集し、安否情報システムを用いて県に報告する。

【収集・報告すべき情報】

- | |
|---|
| <p>1 避難住民・負傷住民</p> <ul style="list-style-type: none">① 氏名② フリガナ③ 出生の年月日④ 男女の別⑤ 住所（郵便番号を含む）⑥ 国籍⑦ その他個人を識別するための情報⑧ 負傷（疾病）の該当⑨ 負傷又は疾病の状況⑩ 現在の居所⑪ 連絡先その他必要情報⑫ 親族・同居者への回答の希望⑬ 知人への回答の希望⑭ 親族・同居者・知人以外の者への回答又は公表の同意 <p>2 死亡した住民等</p> <p>（上記①～⑦及び⑪に加えて）</p> <ul style="list-style-type: none">⑮ 死亡の日時、場所及び状況⑯ 遺体が安置されている場所⑰ 親族・同居者・知人以外の者への回答の同意 |
|---|

(2) 安否情報収集のための体制整備

市は、収集した安否情報を円滑に整理、報告及び提供することができるよう、あらかじめ、市における安否情報の整理担当者及び安否情報の回答責任者等を定めるとともに、職員に対し、必要な研修・訓練を行う。また、県の安否情報収集体制（担当の配置や収集方法・収集先等）の確認を行う。

(3) 安否情報の収集に協力を求める関係機関の把握

市は、安否情報の収集を円滑に行うため、医療機関、諸学校、大規模事業所等安否情報を保有し、収集に協力を求める可能性のある関係機関について、既存の統計資料等に基づいてあらかじめ把握する。

4 被災情報の収集・報告に必要な準備

(1) 情報収集・連絡体制の整備

市は、被災情報の収集、整理及び知事への報告等を適時かつ適切に実施するため、あらかじめ情報収集・連絡に当たる担当者を定めるとともに、必要な体制の整備を図る。

【被災情報の報告様式】

年 月 日に発生した〇〇〇による被害（第 報）

年 月 日 時 分
太田市

1 武力攻撃災害が発生した日時、場所（又は地域）

(1) 発生日時 年 月 日

(2) 発生場所 太田市△△町A番B号（北緯 度、東経 度）

2 発生した武力攻撃災害の状況の概要

3 人的・物的被害状況

市町村名	人的被害				住家被害		その他
	死 者	行方 不明者	負 傷 者		全壊	半壊	
			重傷	軽傷			
(人)	(人)	(人)	(人)	(棟)	(棟)		

※ 可能な場合、死者について、死亡地の市町村名、死亡の年月日、性別、年齢及び死亡時の概況を一人ずつ記入してください。

市町村名	年月日	性別	年齢	概況

(2) 担当者の育成

市は、あらかじめ定められた情報収集・連絡に当たる担当者に対し、情報収集・連絡に対する正確性の確保等に必要な知識や理解が得られるよう研修や訓練を通じ担当者の育成に努める。

第5 研修及び訓練

【危機管理室、消防機関】

市職員は、住民等の生命、身体及び財産を保護する責務を有していることから、研修を通じて国民保護措置の実施に必要な知識の習得に努めるとともに、実践的な訓練を通じて武力攻撃事態等における対処能力の向上に努める必要がある。このため、市における研修及び訓練のあり方について必要な事項を、以下のとおり定める。

1 研修

(1) 研修機関における研修の活用

市は、国民保護の知見を有する職員を育成するため、消防大学校、市町村職員中央研修所、県自治研修センター、県消防学校等の研修機関の研修課程を有効に活用し、職員の研修機会を確保する。

(2) 職員等の研修機会の確保

市は、職員に対して、国、県等が作成する国民保護に関する教材や資料等も活用し、多様な方法により研修を行う。

また、県と連携し、消防団員及び自主防災組織のリーダーに対して国民保護措置に関する研修等を行うとともに、国が作成するビデオ教材や国民保護ポータルサイト、eラーニング等も活用するなど多様な方法により研修を行う。

※【国民保護ポータルサイト】

<https://www.kokuminhogo.go.jp/>

※【総務省消防庁ホームページ】

<https://www.fdma.go.jp/>

(3) 外部有識者等による研修

市は、職員等の研修の実施に当たっては、消防職員を活用するほか、県、自衛隊及び警察の職員、学識経験者等を講師に招くなど外部の人材についても積極的に活用する。

2 訓練

(1) 市における訓練の実施

市は、近隣市町村、県、国等関係機関と共同するなどして、国民保護措置についての訓練を実施し、武力攻撃事態等における対処能力の向上を図る。

訓練の実施に当たっては、具体的な事態を想定し、防災訓練におけるシナリオ作成等、既存のノウハウを活用するとともに、県警察、自衛隊等との連携による、NBCR攻撃等により発生する武力攻撃災害への対応訓練、広域にわたる避難訓練、地下への避難訓練等武力攻撃事態等に特有な訓練等について、人口密集地を含む様々な場所や想定で行うとともに、実際に資機材や様々な情報伝達手段を用いるなど実践的なものとするよう努める。

(2) 訓練の形態及び項目

訓練を計画するに当たっては、実際に人・物等を動かす実動訓練、状況付与に基づいて参加者に意思決定を行わせる図上訓練等、実際の行動及び判断を伴う実践的な訓練を実施する。

また、防災訓練における実施項目を参考にしつつ、以下に示す訓練を実施する。

- ①市対策本部を迅速に設置するための職員の参集訓練及び市対策本部設置運営訓練
- ②警報・避難の指示等の内容の伝達訓練及び被災情報・安否情報に係る情報収集訓練
- ③避難誘導訓練及び救援訓練

(3) 訓練に当たっての留意事項

- ①国民保護措置と防災上の措置との間で相互に応用が可能な項目については、国民保護措置についての訓練と防災訓練とを有機的に連携させる。
- ②国民保護措置についての訓練の実施においては、住民等の避難誘導や救援等に当たり、町内会・自治会の協力を求めるとともに、特に高齢者、障がい者その他特に配慮を要する者への的確な対応が図られるよう留意する。
- ③訓練実施時は、第三者の参加を求め、客観的な評価を行うとともに、参加者等から意見を聴取するなど、教訓や課題を明らかにし、太田市国民保護計画の見直し作業等に反映する。
- ④市は、自治会・町内会、自主防災組織などと連携し、住民に対し広く訓練への参加を呼びかけ、訓練の普及啓発に資するよう努め、訓練の開催時期、場所等は、住民の参加が容易となるよう配慮する。

- ⑤市は、県と連携し、学校、病院、駅、大規模集客施設、大規模集合住宅、官公庁、事業所その他の多数の者が利用又は居住する施設の管理者に対し、火災や地震等の計画及びマニュアル等に準じて警報の内容の伝達及び避難誘導を適切に行うため必要となる訓練の実施を促す。
- ⑥市は、県警察と連携し、避難訓練時における交通規制等の実施について留意する。

第2章 避難、救援及び武力攻撃災害への対処に関する平素からの備え

避難、救援及び武力攻撃災害への対処に関する平素からの備えに関して必要な事項について、以下のとおり定める。

1 避難に関する基本的事項

【危機管理室、福祉こども部、教育部】

(1) 基礎的資料の収集

市は、迅速に避難住民等の誘導を行うことができるよう、住宅地図、道路網のリスト、避難施設のリスト等必要な基礎的資料を準備する。

【市対策本部において集約・整理すべき基礎的資料（例）】

- 住宅地図
（人口分布、世帯数、昼夜別の人口のデータ）
- 区域内の道路網のリスト
（避難経路として想定される高速道路、国道、県道、市道等の道路のリスト）
- 輸送力のリスト
（鉄道、バス等の運送事業者や公共交通機関の保有する輸送力のデータ）
（鉄道網やバス網、保有車両数などのデータ）
- 避難施設のリスト（データベース策定後は、当該データベース）
（避難住民等の収容能力や屋内外の別についてのリスト）
- 備蓄物資、調達可能物資のリスト
（備蓄物資の所在地、数量、区域内の主要な民間事業者のリスト）
- 生活関連等施設等のリスト
（避難住民等の誘導に影響を与えかねない一定規模以上のもの）
- 関係機関（国、県、民間事業者等）の連絡先一覧、協定
（特に、地図や各種のデータ等は、市対策本部におけるテレビの画面上にディスプレイできるようにしておくことが望ましい。）
- 町内会・自治会、自主防災組織等の連絡先等一覧
（代表者及びその代理の者の自宅及び勤務先の住所、連絡先等）
- 消防機関のリスト

(消防本部・署の所在地等の一覧、消防団長の連絡先)

(消防機関の装備資機材のリスト)

○ 避難行動要支援者名簿

(2) 隣接する市町村との連携の確保

市は、市町村の区域を越える避難を行う場合に備えて、平素から、隣接する市町村と想定される避難経路や相互の支援の在り方等について意見交換を行い、また、訓練を行うこと等により、緊密な連携を確保する。

(3) 高齢者、障がい者等避難行動要支援者への配慮

市は、避難住民等の誘導に当たっては、高齢者、障がい者等自ら避難することが困難な者の避難について、自然災害時への対応として作成している避難行動要支援者名簿を活用しつつ、避難行動要支援者の避難対策を講じる。

その際、避難誘導時において、災害・福祉関係部局を中心とした横断的な「避難行動要支援者支援班」を迅速に設置できるよう職員の配置に留意する。

※【避難行動要支援者名簿について】

武力攻撃やテロ発生時においても、避難誘導に当たっては、自然災害時と同様、高齢者、障害者等の避難行動要支援者への配慮が重要であるが、平素から、自然災害時における取組みとして行われる避難行動要支援者名簿を活用することが重要である（「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」（平成 25 年 8 月）参照）。

避難行動要支援者名簿は、災害対策基本法第 49 条の 10 において作成を義務づけられており、避難行動要支援者の氏名や生年月日、住所、避難支援等を必要とする事由等を記載又は記録するものとされている。

また、災害発生時に避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難支援等の実施に結びつくため、市は避難行動要支援者の名簿情報について、地域防災計画の定めるところにより、あらかじめ避難支援等の実施に必要な限度で、避難支援等の実施に携わる関係者（避難支援等関係者）に提供することが求められている。

(4) 民間事業者からの協力の確保

市は、避難住民等の誘導時における地域の民間事業者の協力の重要性にかんがみ、平素から、これら企業の協力が得られるよう、連携・協力の関係を構築する。

(5) 学校や事業所との連携

市は、学校や大規模な事業所における避難に関して、時間的な余裕がない場合においては、事業所単位により集団で避難することを踏まえて、平素から、各事業所における避難の在り方について、意見交換や避難訓練等を通じて、対応を確認する。

2 避難実施要領のパターンの作成

【関係課】

市は、関係機関（県、県警察、自衛隊等）と十分な意見交換を行い、複数の避難実施要領のパターンをあらかじめ作成する。この場合、関係機関との調整に基づく輸送手段の確保や高齢者、障害者などの避難方法について配慮する。

3 救援に関する基本的事項

【危機管理室】

(1) 県との調整

市は、県から救援の一部の事務を当該市において行うこととされた場合や市が県の行う救援を補助する場合にかんがみて、市の行う救援の活動内容等について、自然災害時における市の活動状況等を踏まえ、必要な体制を整備する。

(2) 基礎的資料の準備等

市は、県と連携して、救援に関する事務を行うために必要な資料を準備するとともに、避難に関する平素の取組みと並行して、関係機関との連携体制を確保する。

4 運送事業者の輸送力・輸送施設の把握等

【危機管理室、県、警察機関】

市は、県と連携して、運送事業者の輸送力の把握や輸送施設に関する情報の把握等を行うとともに、避難住民等や緊急物資の運送を実施する体制を整備するよう努める。

(1) 運送事業者の輸送力及び輸送施設に関する情報の把握

市は、県が保有する当該市の区域の輸送に係る運送事業者の輸送力及び輸送施設に関する情報を共有する。

○輸送力に関する情報
①保有車輛等(鉄道、定期・路線バス等)の数、定員
②本社及び支社の所在地、連絡先、連絡方法 など
○輸送施設に関する情報
①道路 (路線名、起点・終点、車線数、管理者の連絡先など)
②鉄道 (路線名、終始点駅名、路線図、管理者の連絡先など)

(2) 運送経路の把握等

市は、武力攻撃事態等における避難住民等や緊急物資の運送を円滑に行うため、県が保有する当該市の区域に係る運送経路の情報を共有する。

(3) 避難手段の調整

市は、避難時の交通手段については、マイカーの使用は原則として禁止とするが、公共交通機関の利便性などの地域特性、避難に要する時間の長さ、避難先の地域までの距離などを考慮して、やむをえない場合は、使用を認めることとする。

このため、市は、地域特性などに合わせた交通手段の確保について、県警察などの関係機関と調整する。

5 避難施設の指定への協力

【危機管理室】

市は、県が行う避難施設の指定に際しては、施設の収容人数、構造、保有設備等の必要な情報を提供するなど県に協力する。

市は、県が指定した避難施設に関する情報を避難施設データベース等により、県と共有するとともに、県と連携して住民等に周知する。

6 生活関連等施設の把握等

【危機管理室、公共施設管理者】

(1) 生活関連等施設の把握等

市は、その区域内に所在する生活関連等施設について、県を通じて把握するとともに、県との連絡態勢を整備する。

また、市は、「生活関連等施設の安全確保の留意点について」（平成 17 年 8 月 29 日閣副安危第 364 号内閣官房副長官補（安全保障・危機管理担当）付内閣参事官通知）に基づき、その管理に係る生活関連等施設の安全確保措置の実施のあり方について定める。

【市内に所在する生活関連等施設の種類及び所管省庁、所管県担当部局】

国民保護法 施行令	各号	施 設 の 種 類	所管省庁名	所管県担当部局
第 2 7 条	1 号	発電所、変電所	経済産業省	
	2 号	ガス工作物	経済産業省	
第 2 8 条	1 号	危険物	総務省消防庁	
	2 号	毒劇物（毒物及び劇物取締法）	厚生労働省	健康福祉部
	7 号	放射性同位元素（汚染物質を含む。）	文部科学省	健康福祉部、農政部、 企業局、病院局

(2) 市が管理する公共施設等における警戒

市は、その管理に係る公共施設、公共交通機関等について、特に情勢が緊迫している場合等において、必要に応じ、生活関連等施設の対応も参考にして、県の措置に準じて警戒等の措置を実施する。この場合において、県警察等との連携を図る。

第3章 物資及び資材の備蓄、整備

市が備蓄、整備する国民保護措置の実施に必要な物資及び資材について、以下のとおり定める。

1 市における備蓄

【危機管理室、県】

(1) 防災のための備蓄との関係

住民等の避難や避難住民等の救援に必要な物資や資材については、従来の防災のために備えた物資や資材と共通するものが多いことから、可能であるものについては、原則として、国民保護措置のための備蓄と防災のための備蓄とを相互に兼ねるとともに、武力攻撃事態等において特に必要となる物資及び資材について、備蓄し、又は特に地下に所在する避難施設などで、防災のための備蓄が整備されていない施設については、近隣の避難施設から必要な物資及び資材を輸送し、活用を行うことを含め、調達体制を整備する。

(2) 国民保護措置の実施のために必要な物資及び資材

国民保護措置の実施のため特に必要となる化学防護服や放射線測定装置等の資機材については、国がその整備や整備の促進に努めることとされ、また、安定ヨウ素剤や天然痘ワクチン等の特殊な薬品等のうち国において備蓄・調達体制を整備することが合理的と考えられるものについては、国において必要に応じて備蓄・調達体制の整備等を行うこととされており、市としては、国及び県の整備の状況等も踏まえ、県と連携しつつ対応する。

【国民保護措置のために特に必要な物資及び資材の例】

安定ヨウ素剤、天然痘ワクチン、化学防護服、放射線測定装置、放射性物質等による汚染の拡大を防止するための除染器具 など

(3) 県との連携

市は、国民保護措置のために特に必要となる物資及び資材の備蓄・整備について、県と密接に連携して対応する。

また、武力攻撃事態等が長期にわたった場合においても、国民保護措置に必要な物資及び資材を調達することができるよう、他の市町村等や事業者等との間で、その供給に関する協定をあらかじめ締結するなど、必要な体制を整備する。

2 市が管理する施設及び設備の整備及び点検等

【ライフライン管理者】

(1) 施設及び設備の整備及び点検

市は、国民保護措置の実施も念頭におきながら、その管理する施設及び設備について、整備し、又は点検する。

(2) ライフライン施設の機能の確保

市は、その管理する上下水道施設等のライフライン施設について、自然災害に対する既存の予防措置を活用しつつ、系統の多重化、拠点の分散、代替施設の整備等による代替性の確保に努める。

(3) 復旧のための各種資料等の整備等

市は、武力攻撃災害による被害の復旧の的確かつ迅速な実施のため、地籍調査の成果、不動産登記その他土地及び建物に関する権利関係を証明する資料等について、既存のデータ等を活用しつつ整備し、その適切な保存を図り、及びバックアップ体制を整備するよう努める。

第4章 国民保護に関する啓発

武力攻撃災害による被害を最小限化するためには、市民が国民保護に関する正しい知識を身につけ、武力攻撃事態等において適切に行動する必要があることから、国民保護に関する啓発や武力攻撃事態等において市民がとるべき行動等に関する啓発のあり方について必要な事項を、以下のとおり定める。

1 国民保護措置に関する啓発

【危機管理室、教育部】

(1) 啓発の方法

市は、国及び県と連携しつつ、市民に対し、広報誌、パンフレット、テレビ、インターネット等の様々な媒体を活用して、国民保護措置の重要性について継続的に啓発を行うとともに、市民向けの研修会、講演会等を実施する。また、高齢者、障がい者、外国人等に対しては、点字や外国語を使用した広報媒体を使用するなど実態に応じた方法により啓発を行う。その際、防災の取組みを含め、功労のあった者の表彰などにより、国民保護に関する市民への浸透を図る。

(2) 防災に関する啓発との連携

市は、啓発の実施に当たっては、防災に関する啓発とも連携し、消防団及び自主防災組織の特性も活かしながら市民への啓発を行う。

(3) 学校における教育

市教育委員会は、県教育委員会の協力を得て、児童生徒等の安全の確保及び災害対応能力育成のため、市立学校において、安全教育や自他の生命を尊重する精神、ボランティア精神の養成等のための教育を行う。

2 武力攻撃事態等において市民がとるべき行動等に関する啓発

【危機管理室、健康医療部、県、消防機関】

市は、武力攻撃災害の兆候を発見した場合の市長等に対する通報義務、不審物等を見つけた場合の管理者に対する通報等について、啓発資料等を活用して市民への周知を図る。

また、市は、弾道ミサイル攻撃の場合や地域においてテロが発生した場合などに市民がとるべき対処についても、国が作成する各種資料（内閣官房作成の「武力攻撃やテロなどから身を守るために」など）を防災に関する行動マニュアルなどと併せて活用しながら、市民に対し周知するよう努める。

また、市は、日本赤十字社、県、消防機関などとともに、傷病者の応急手当について普及に努める。

第3編 武力攻撃事態等への対処

第1章 初動連絡体制の迅速な確立及び初動措置

多数の死傷者が発生したり、建造物が破壊される等の具体的な被害が発生した場合には、当初、その被害の原因が明らかではないことも多いと考えられ、市は、武力攻撃事態等や緊急対処事態の認定が行われる前の段階においても、住民等の生命、身体及び財産の保護のために、現場において初動的な被害への対処が必要となる。

また、他の市町村において攻撃が発生している場合や何らかの形で攻撃の兆候に関する情報が提供された場合においても、事案発生時に迅速に対応できるよう、即応体制を強化しておくことが必要となることも考えられる。

このため、かかる事態において初動体制を確立し、関係機関からの情報等を迅速に集約・分析して、その被害の態様に応じた応急活動を行っていくことの重要性にかんがみ、市の初動体制について、以下のとおり定める。

1 緊急事態発生直後の対応

市長や消防機関は、現場からの情報により多数の人が殺傷する行為等の事案の発生を把握した場合、引き続き即報要領に基づき、県及び消防庁に速やかに報告する。

2 緊急事態発生時の初動体制

(1) 市災害対策本部（又は市災害警戒本部）の設置（市地域防災計画による体制）

市内で緊急事態が発生した場合、その原因が明らかになるまでの間は、被害の状況に応じて市防災計画に基づき設置される市災害対策本部（又は市災害警戒本部）により、災害者の救助、災害の拡大防止など、災害対策基本法に基づいて緊急事態発生時の初動措置を実施する。

(2) 市準備本部の設置

原因不明の緊急事態が武力攻撃であることが明らかになった段階でも、国の事態認定前や事態認定後であっても、市に対して本部設置指示が届くまでの間は、市準備本部を設置して、情報収集などを実施する。

市準備本部を設置したときは、下記の機関に対して連絡し、国民保護措置等の実施に備える。

- ① 国

- ② 県
- ③ 県警察
- ④ 近隣の市町及び消防機関
- ⑤ 指定公共機関及び指定地方公共機関
- ⑥ 医療機関

市準備本部は、県警察、近隣の消防機関などの関係機関を通じて武力攻撃によって発生した災害に関する情報収集に努め、国、県、近隣の市町、指定公共機関、指定地方公共機関などの関係機関に対して速やかに情報提供を行うとともに、緊急事態連絡室を設置した旨について、県に連絡を行う。

なお、市準備本部では、消防法、警察官職務執行法、災害対策基本法などに基づいて実施される避難の指示、警戒区域の設定、救急救助などの応急措置についての情報を収集・分析し、被害の最小化を図る。

更に、事態認定後においては、退避の指示や警戒区域の設定など、状況に応じて国民保護措置等を行うとともに、必要に応じて、本部設置指定を知事を経由して、国に要請する。

また、緊急事態に伴い発生した災害への対処に対して、必要があると認めるときは、県や近隣の市町等に対し支援を要請する。

(3) 市対策本部への移行

当初原因が不明であった緊急事態が、武力攻撃として国において事態認定され、国民保護対策本部の設置指定が閣議決定に基づき通知された場合は、直ちに市対策本部へ移行し、災害対策基本法に基づいて講じられた措置に代えて、改めて国民保護法に基づく措置を実施するなど、必要な調整を行う。

3 武力攻撃等の兆候に関する連絡があった場合の対応

【防災班】

市は、国から県を通じて、警戒態勢の強化等を求める通知や連絡があった場合や武力攻撃事態等の認定が行われたが当該市に関して本部設置指定がなかった場合等において、市長が不測の事態に備えた即応体制を強化すべきと判断した場合には、担当課室体制を立ち上げ、又は、市情報連絡室を設置して、即応体制の強化を図る。

この場合において、市長は、情報連絡体制の確認、職員の参集体制の確認、関係機関との通信・連絡体制の確認、生活関連等施設等の警戒状況の確認等を行い、本市の区域において事案が発生した場合に迅速に対応できるよう、必要に応じ全庁的な体制を構築する。

第2章 市対策本部の設置等

市対策本部を迅速に設置するため、市対策本部を設置する場合の手順や市対策本部の組織、機能等について、以下のとおり定める。

1 市対策本部の設置

【防災班、広報連絡班、情報管理班】

(1) 市対策本部の設置の手順

市対策本部を設置する場合については、次の手順により行う。

①市対策本部を設置すべき市町村の指定の通知

市長は、内閣総理大臣から、総務大臣（消防庁）及び県知事を通じて市対策本部を設置すべき市の指定の通知を受ける。

②市長による市対策本部の設置

本部設置指定の通知を受けた市長は、直ちに市対策本部を設置する（※事前に緊急事態連絡室（市情報連絡室又は市準備本部）を設置していた場合は、市対策本部に切り替えるものとする）。

③市対策本部員及び市対策本部職員の参集

市対策本部担当者は、市対策本部員、市対策本部職員等に対し、一斉参集システム等の連絡網を活用し、市対策本部に参集するよう連絡する。

※一斉参集システム

大規模災害発生時等において、災害種別、規模等を選択することにより、事前に設定した職員（携帯電話等）に対して参集のための災害発生の通知を行うシステム

④市対策本部の開設

市対策本部担当者は、市庁舎4階庁議室に市対策本部を開設するとともに、市対策本部に必要な各種通信システムの起動、資機材の配置等必要な準備を開始する（特に、関係機関が相互に電話、FAX、電子メール等を用いることにより、通信手段の状態を確認）。

市長は、市対策本部を設置したときは、市議会に市対策本部を設置した旨を連絡する。

⑤交代要員等の確保

市は、防災に関する体制を活用しつつ、職員の配置、食料、燃料等の備蓄、自家発電設備及び仮眠設備の確保等を行う。

⑥本部の代替機能の確保

市は、市対策本部が被災した場合等市対策本部を市庁舎内に設置できない場合に備え、市対策本部の予備施設をあらかじめ指定する（第1順位、第2順位など）。なお、事態の状況に応じ、市長の判断により下記の順位を変更することを妨げるものではない。

また、市区域外への避難が必要で、市の区域内に市対策本部を設置することができない場合には、知事と市対策本部の設置場所について協議を行う。

(2) 市対策本部を設置すべき市の指定の要請等

市長は、市が市対策本部を設置すべき市の指定が行われていない場合において、市における国民保護措置を総合的に推進するために必要があると認める場合には、知事を経由して内閣総理大臣に対し、市対策本部を設置すべき市の指定を行うよう要請する。

(3) 市対策本部の組織構成及び機能

市対策本部の組織系統及び事務分掌は次のとおりとする。

【太田市対策本部の組織】



※市対策本部における決定内容等を踏まえて、各部課室において措置を実施するものとする（市対策本部には、各部課室から支援要員を派遣して、円滑な連絡調整を図る）。

【市の各部課室における武力攻撃事態等における分掌事務】

(*印は班長、その他は副班長)

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
<p>総務部 (*総務部長 「危機管理監」) (防災防犯担当 「副危機管理監」) (総務担当) (税務担当)</p>	<p>防災班 (*危機管理室長)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 太田市国民保護対策本部又は太田市緊急対処事態対策本部(以下「市対策本部」という。)の庶務に関する事 2 市対策本部会議の開催及び運営に関する事 3 市対策本部長又は市対策本部会議からの指示等に係る伝達に関する事 4 各機関が行う国民保護措置の総合調整に関する事 5 各部の連絡調整に関する事 6 安否情報に関する事 7 被害状況及び応急対策実施状況の取りまとめ報告に関する事 8 国、県、自衛隊及び関係機関との連絡調整に関する事 9 防災行政無線に関する事 10 緊急通報の伝達及び通知に関する事 11 警戒区域の設定に関する事 12 避難の指示伝達に関する事 13 職員の動員及び各部参集状況に関する事 14 市対策本部の活動状況や実施した国民保護措置等の記録に関する事 15 その他いずれの部または班に属さない事項に関する事
	<p>総務班 (*総務課長) (財政課長) (管財課長) (契約検査課長) (選挙管理委員会事務局課長)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 部内各班の総合調整に関する事 2 武力攻撃等災害応急措置関係予算の編成及び資金調達に関する事 3 市庁舎、市有財産の管理及び被害状況の報告に関する事 4 公用車による人員及び物資の輸送に関する事 5 緊急通行車両の確認事務及び連絡調整に関する事 6 特殊標章等の交付等に関する事 7 復旧工事契約に関する事 8 応急対策物資の納入及び出納に関する事

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
	調査班 (* 市民税課長) (資産税課長) (収納課長) (収納課主幹)	1 家屋等の被害状況調査と報告に関すること 2 市税の徴収猶予及び減免に関すること 3 税務一般に関すること
消防本部 (*消防長) (消防次長) (中央消防署長)	消防総務班 (* 消防総務課長)	1 消防本部内および他の部との連絡調整に関すること 2 消防職員の物品(燃料、食糧その他必要品)の調達に関すること
	消防予防班 (* 予防課長)	1 災害時広報に関すること 2 災害・救急医療の情報に関すること 3 避難の誘導に関すること
	消防警防班 (* 警防課長) (指揮隊長) (救急課長)	1 武力攻撃等災害に対する警戒・防御に関すること 2 水防活動に関すること 3 消防隊の総括運用に関すること 4 消防資機材の調達に関すること 5 関係機関の相互応援要請に関すること
	消防団班 (* 消防総務課主幹)	1 消防団に関すること 2 消防団と関係部、班との連絡調整に関すること 3 消防団の物品(燃料、食糧その他必要物品)の調達に関すること 4 消防団の公務災害補償に関すること
	消防通信指令班 (* 通信指令課長)	1 武力攻撃等災害情報の収集及び出動命令に関すること 2 武力攻撃等災害情報等の受信及び伝達に関すること 3 消防通信に関すること

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
	中央消防班 (*中央消防署副署長) (沢野分署長)	1 武力攻撃等災害の警報及び防御並びに警戒区域の設定に関する事 2 救助及び救急活動に関する事
	東部消防班 (*東部消防署長) (東部消防署副署長) (九合分署長)	3 武力攻撃等災害情報の収集に関する事 4 避難の指導に関する事
	西部消防班 (*西部消防署長) (西部消防署副署長) (尾島分署長) (藪塚分署長)	
	大泉消防班 (*大泉消防署長) (大泉消防署副署長)	
秘書室	秘書班 (*秘書室長)	1 本部長及び副本部長の秘書に関する事
企画部 (*企画部長) (企画担当) (行革・人事担当)	企画班 (*企画政策課長) (おおた PR 戦略課長) (国際課長)	1 部内各班の総合調整に関する事 2 武力攻撃等災害見舞、視察者に関する事 3 外国人に対する情報提供に関する事 4 外国人に対する生活相談に関する事 5 武力攻撃等災害統計に関する事
	人事班 (*人事課長) (人事課主幹) (行革推進課長)	1 職員の動員、派遣要請及び斡旋に関する事 2 職員の公務災害補償に関する事 3 職員及び家族の被災状況の把握に関する事 4 職員への食糧等の配給に関する事 5 職員のメンタルヘルスに関する事
	情報管理班 (*情報管理課長) (情報管理課主幹)	1 電算システムの保全に関する事
	広報連絡班 (*広報課長)	1 武力攻撃等の情報の広報活動に関する事 2 記録写真撮影及び各種資料収集に関する事 3 報道機関との連絡調整に関する事 4 武力攻撃等災害情報等のインターネットへの情報発信及び庁内放送に関する事

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
市民生活部 (*市民生活部長) (市民生活部副部長)	市民そうだん班 (*市民そうだん課長)	1 部内各班の総合調整に関する事 2 ボランティア活動の支援に関する事 3 民間ボランティアの受け入れ及び配置に関する事 4 市民からの陳情に関する事
	市民班 (*市民課長)	1 死体の埋火葬に関する事 2 避難者の避難状況の取りまとめに関する事 3 死者、負傷者、行方不明者の取りまとめに関する事
	交通対策班 (*交通対策課長)	1 災害時の交通情報の収集、分析及び提供に関する事 2 交通路の確保に関する事 3 交通規制及び緊急輸送道路に関する事
地域振興部 (*地域振興部長) (地域振興部副部長)	地域総務班 (*地域総務課長)	1 区長会との連絡調整に関する事 2 各行政センターとの連絡調整に関する事
	避難所1班 (*各地区振興課長)	1 行政センターの被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 2 避難所設置、管理に関する事 3 炊き出しに関する事 4 避難者名簿の作成に関する事 5 避難者への情報提供、広聴に関する事 6 本庁との連絡調整に関する事 7 藪塚庁舎の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事。(藪塚行政センター)
文化スポーツ部 (*文化スポーツ部長) (スポーツ担当) (文化芸術担当)	避難所2班 (*文化スポーツ総務課長) (文化課長) (芸術学校担当) (スポーツ振興課長) (スポーツ学校担当) (スポーツ施設管理課長) (学習文化課長) (西複合施設課長) (美術館・図書館長)	1 運動施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 2 社会教育施設、芸術文化施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 3 避難所の開設、管理に関する事 4 炊き出しに関する事 5 避難者名簿の作成に関する事 6 避難者への情報提供、広聴に関する事 7 本庁との連絡調整に関する事 8 遺体安置所の設置・管理に関する事

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
福祉こども部 (*福祉こども部長) (福祉こども部副部長)	救護救援班 (*社会支援課長) (障がい福祉課長) (長寿あんしん課長) (こども課長) (子育てそうだん課長) (児童施設課長) (社会福祉法人監査室長)	<ol style="list-style-type: none"> 1 避難場所の応急衣料、寝具、生活必需品の配給に関する事 2 救助物資の保管及び受払いに関する事 3 部内各班の総合調整に関する事 4 義援金の募集、配分に関する事 5 死体の埋葬に関する事(身元不明者) 6 福祉施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事(母子児童福祉施設を除く) 7 福祉施設入居者の避難等の指導に関する事 8 日赤、社会福祉協議会などのボランティア活動の支援に関する事 9 高齢者、障がい者の被害状況等の把握に関する事 10 福祉避難所の設置・管理に関する事 11 福祉避難所への専門的なスタッフの確保・派遣に関する事 12 被害を受けた高齢者及び障がい者の保護、救済に関する事 13 被災児童の保護、救済に関する事 14 児童施設の調査報告、応急対策に関する事 15 避難行動要支援者の支援に関する事
健康医療部 (*健康医療部長) (健康医療部副部長)	医療防疫班 (*健康づくり課長) (健康づくり課主幹) (国民健康保険課長) (医療年金課長) (介護サービス課長)	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療施設の被害状況の調査報告に関する事 2 医療要員、医療用資機材及び医療品の確保に関する事 3 救護所の設置、管理、負傷者の収容に関する事 4 食品衛生の確保に関する事 5 防疫活動に関する事 6 太田市医師会緊急医療対策本部及び医療機関との連絡に関する事 7 被災者の医療、救護、助産に関する事 8 被災者の健康の確保に関する事 9 被災者のメンタルヘルスに関する事 10 避難行動要支援者の支援に関する事

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
産業環境部 (*産業環境部長) (産業環境部副部長)	商工班 (*産業政策課長) (観光交流課長)	1 部内各班の連絡調整に関する事 2 事業所、商工業関係の被害状況の調査報告に 関すること 3 観光施設の応急対策に関する事 4 工場に対する応急対策に関する事 5 救援物資の需給に関する事 6 燃料等の確保に関する事
	環境班 (*環境対策課長) (脱炭素推進室長)	1 公害防止関係施設の被害状況の調査報告に 関すること 2 鼠族・昆虫等の駆除 3 被災者のペット対策に関する事 4 放射性物質の影響に関する事 5 毒劇物等の環境影響に関する事
	清掃事業班 (*清掃事業課長)	1 清掃施設の被害状況の調査報告及び応急対策に 関すること 2 被災地の応急的清掃に関する事 3 小動物の死体の処理に関する事 4 清掃班の編成に関する事
農政部 (*農政部長) (農政部副部長) (農業委員会事務局長)	農政総務班 (*農業政策課長) (農業委員会事務局次長)	1 部内各班の総合調整に関する事 2 農畜林業関係の被害状況の調査報告に関する こと 3 農地の被害状況等の調査報告に関する事 4 応急食料品の調達及び配給に関する事 5 農畜産関係の応急救助に関する事 6 農畜産関係資機材の斡旋提供に関する事 7 営農資金の貸付に関する事 8 市有林に関する事 9 農産物の風評被害対策に関する事 10 新田庁舎の被害状況の調査報告及び応急 対策に関する事。
	農村整備班 (*農村整備課長)	1 農業用施設の被害調査及び応急対策に関する こと 2 水門の管理に関する事 3 農業用水路及び水門の被害状況の調査報告及び 応急対策に関する事

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
都市政策部 (*都市政策部長) (都市建設担当) (土木建築担当)	都市計画班 (*都市計画課長) (まちづくり推進課長)	1 部内各班の総合調整に関する事 2 都市計画施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 3 被災地区の復旧計画に関する事 4 復興計画の推進に関する事
	建築指導班 (*建築指導課長)	1 被害建築物の応急対策及び指導に関する事 2 被災建築物及び宅地の危険度判定の実施に関する事
	資材班 (*市街地整備課長)	1 応急資材の確保、受入れ及び配分に関する事 2 緊急物資輸送経路の確保に関する事 3 土地区画整理事業地内の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事
	土木班 (*道路整備課長) (道路保全課長)	1 土木施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 2 道路の通行止め及び迂回路の設定等に関する事 3 緊急輸送路の確保に関する事 4 道路、河川における障害物の除去に関する事 5 被害道路、橋梁、河川の応急修理に関する事 6 被害対策労務者の確保に関する事 7 建設機械等の確保に関する事
	建設班 (*建築住宅課長)	1 応急仮設住宅の建設及び入居者の選定に関する事 2 市営住宅の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 3 避難所の建設修理に関する事
	下水道班 (*下水道課長)	1 下水道施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 2 被災下水道施設修理に関する事。 3 仮設トイレの設置に関する事 4 衛生施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関する事 5 浸水便槽の汲取りに関する事 6 仮設トイレの管理に関する事

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
行政事業部 (*行政事業部長) (行政事業部副部長)	総務管理班 (*事業管理課長) (花と緑の課長) (花と緑の課主幹)	1 行政事業部管理施設の被害状況の調査報告及び 応急対策に関すること 2 部内各班の連絡調整に関すること 3 道路・公園における倒木の除去に関すること 4 公園等の管理に関すること 5 墓地の確保に関すること
	開発班 (*用地企画課長)	1 応急仮設住宅敷地の確保に関すること 2 避難経路の確保及び避難者の誘導に関する こと
教育部 (*教育部長) (管理担当) (指導担当)	教育総務班 (*教育総務課長) (学校施設管理課長) (学校施設管理課主幹) (市立太田高校事務長)	1 部内各班の総合調整に関すること 2 学校施設の被害状況の調査報告及び応急対策 に関すること 3 学校施設の復旧に関すること 4 避難所の開設、管理及び運営並びに避難者の 収容に関すること 5 被災者の炊き出しに関すること 6 避難者名簿の作成に関すること 7 避難者への情報提供・広報に関すること 8 尾島庁舎の被害状況の調査報告及び応急 対策に関すること。

部 (部長相当職等)	班 (課長相当職)	分 掌 事 務
	学校教育班 (*学校教育課長) (学校教育課指導主幹) (生涯学習課長) (生涯学習課指導主幹)	1 緊急時における学校への命令伝達に関すること 2 児童、生徒の避難に関すること 3 児童、生徒の応急教育に関すること 4 児童、生徒、教職員及び家族の被害調査に関すること 5 被害児童生徒の学用品の支給に関すること 6 青少年施設の被害状況の調査報告及び応急対策に関すること 7 避難所の開設、管理及び運営並びに避難者の収容に関すること 8 被災者の炊き出しに関すること 9 避難者名簿の作成に関すること 10 避難者への情報提供・広報に関すること
	文化財班 (*文化財課長)	1 指定文化財の被害状況の調査報告及び応急対策に関すること 2 指定文化財の緊急避難と一時保管に関すること 3 避難所の開設、管理及び運営並びに避難者の収容に関すること 4 被災者の炊き出しに関すること 5 避難者名簿の作成に関すること 6 避難者への情報提供・広報に関すること
会計課 (*会計管理者)	会計班 (*会計課長)	1 被災関係の経理に関すること 2 他の部班の応援に関すること
協力1部 (*議会事務局長) (議会事務局副局長)	協力1班 (*議会総務課長)	1 他の部班の応援に関すること
協力2部 (*監査委員事務局長)	協力2班 (*監査委員事務局次長)	1 他の部班の応援に関すること
協力3部 (太田市外三町広域清掃組合)		1 廃棄物の処理に関すること
協力4部 (群馬東部水道企業団)		1 上水道施設の保全及び応急復旧に関すること。 2 水道水の供給の確保に関すること。

※太田市外三町広域清掃組合及び派遣職員並びに外郭団体の専従職員を除く。

※担当班が明確でない事務が生じたときは、関係班で調整の上、担当班を定め、又は共同で処理するものとする。

(4) 市対策本部における広報等

市は、武力攻撃事態等において、情報の錯綜等による混乱を防ぐために、住民等に適時適切な情報提供や行政相談を行うため、市対策本部における広報広聴体制を整備する。

【市対策本部における広報体制】

①広報責任者の設置

武力攻撃事態等において住民等に正確かつ積極的に情報提供を行うため、広報を一元的に行う「広報責任者」を設置するものとする。

②広報手段

広報紙、テレビ・ラジオ放送、記者会見、問い合わせ窓口の開設、インターネットホームページ等のほか様々な広報手段を活用し、住民等に迅速な情報提供できる体制を整備する。

③留意事項

- ア) 広報の内容は、事実に基づく正確な情報であることとし、また、広報の時期を逸することのないよう迅速に対応すること。
- イ) 市対策本部において重要な方針を決定した場合など、広報する情報の重要性等に応じて市長自ら記者会見を行うこと。
- ウ) 県と連携した広報体制を構築すること。

(5) 市現地対策本部の設置

市長は、被災現地における国民保護措置の的確かつ迅速な実施並びに国、県等の対策本部との連絡及び調整等のため現地における対策が必要であると認めるときは、市対策本部の事務の一部を行うため、市現地対策本部を設置する。

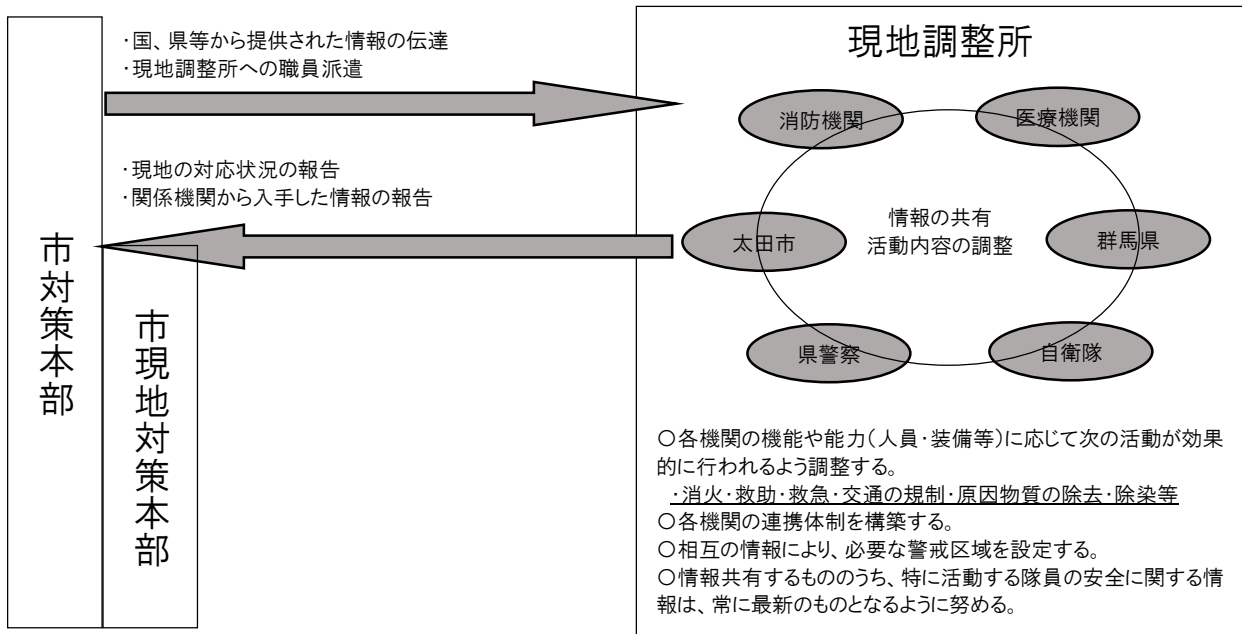
市現地対策本部長や市現地対策本部員は、市対策副本部長、市対策本部員その他の職員のうちから市対策本部長が指名する者をもって充てる。

(6) 現地調整所の設置

市長は、武力攻撃による災害が発生した場合、その被害の軽減及び現地において措置に当たる要員の安全を確保するため、現場における関係機関（県、消防機関、県警察、自衛隊、医療機関等）の活動を円滑に調整する必要があると認めるときは、現地

調整所を設置し、（又は関係機関により現地調整所が設置されている場合は職員を派遣し、）関係機関との情報共有及び活動調整を行う。

※【現地調整所の組織編成例】



(7) 市対策本部長の権限

市対策本部長は、その区域における国民保護措置を総合的に推進するため、各種の国民保護措置の実施に当たっては、次に掲げる権限を適切に行使して、国民保護措置の的確かつ迅速な実施を図る。

①市の区域内の国民保護措置に関する総合調整

市対策本部長は、市の区域に係る国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、当該市が実施する国民保護措置に関する総合調整を行う。

②県対策本部長に対する総合調整の要請

市対策本部長は、県対策本部長に対して、県並びに指定公共機関及び指定地方公共機関が実施する国民保護措置に関して所要の総合調整を行うよう要請する。また、市対策本部長は、県対策本部長に対して、国の対策本部長が指定行政機関及び指定公共機関が実施する国民保護措置に関する総合調整を行うよう要請することを求める。

この場合において、市対策本部長は、総合調整を要請する理由、総合調整に係る機関等、要請の趣旨を明らかにする。

③情報の提供の求め

市対策本部長は、県対策本部長に対し、市の区域に係る国民保護措置の実施に関し総合調整を行うため必要があると認めるときは、必要な情報の提供を求める。

④国民保護措置に係る実施状況の報告又は資料の求め

市対策本部長は、総合調整を行うに際して、当該総合調整の関係機関に対し、市の区域に係る国民保護措置の実施の状況について報告又は資料の提出を求める。

⑤市教育委員会に対する措置の実施の求め

市対策本部長は、市教育委員会に対し、市の区域に係る国民保護措置を実施するため必要な限度において、必要な措置を講ずるよう求める。

この場合において、市対策本部長は、措置の実施を要請する理由、要請する措置の内容等、当該求めの趣旨を明らかにして行う。

(8) 市対策本部の廃止

市長は、内閣総理大臣から、総務大臣（消防庁）及び知事を経由して市対策本部を設置すべき市の指定の解除の通知を受けたときは、遅滞なく、市対策本部を廃止する。

2 通信の確保

【防災班、情報管理班】

(1) 情報通信手段の確保

市は、携帯電話、衛星携帯電話、移動系市防災行政無線等の移動系通信回線若しくは、インターネット、L GWAN（総合行政ネットワーク）、同報系無線、地域防災無線等の固定系通信回線の利用又は臨時回線の設定等により、市対策本部と市現地対策本部、現地調整所、要避難地域、避難先地域等との間で国民保護措置の実施に必要な情報通信手段を県の対応に準じ、確保する。

(2) 情報通信手段の機能確認

市は、必要に応じ、情報通信手段の機能確認を行うとともに、支障が生じた情報通信施設の応急復旧作業を行うこととし、そのための要員を直ちに現場に配置する。ま

た、直ちに総務省にその状況を連絡する。

(3) 通信輻輳により生じる混信等の対策

市は、武力攻撃事態等における通信輻輳により生ずる混信等の対策のため、必要に応じ、通信運用の指揮要員等を避難先地域等に配置し、自ら運用する無線局等の通信統制等を行うなど通信を確保するための措置を講ずるよう努める。

第3章 関係機関相互の連携

市は、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、国、県、他の市町村、指定公共機関及び指定地方公共機関その他関係機関と相互に密接に連携することとし、それぞれの関係機関と市との連携を円滑に進めるために必要な事項について、以下のとおり定める。

1 国・県の対策本部との連携

【防災班】

(1) 国・県の対策本部との連携

市は、県の対策本部及び、県を通じ国の対策本部と各種の調整や情報共有を行うこと等により密接な連携を図る。

(2) 国・県の現地対策本部との連携

市は、国・県の現地対策本部が設置された場合は、連絡員を派遣するなどし、緊密な連携を図る。また、国の現地対策本部と群馬県及び太田市等関係市町村による合同対策協議会が開催される場合には、国民保護措置に関する情報交換と国民保護措置に係る相互協力に努める。また、運営が効率的であると判断される場合には、必要に応じて、県・国と調整のうえ、共同で現地対策本部を設置し、適宜情報交換等を行うとともに、共同で現地対策本部の運用を行うこととする。

また、国の現地対策本部長が武力攻撃事態等合同対策協議会を開催する場合には、当該協議会へ参加し、国民保護措置に関する情報の交換や相互協力に努める。

2 知事、指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長等への措置要請等

【防災班】

(1) 知事等への措置要請

市は、当該市の区域における国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、知事その他県の執行機関（以下「知事等」という。）に対し、その所掌事務に係る国民保護措置の実施に関し必要な要請を行う。この場合において、市は、要請する理由、活動内容等をできる限り具体的に明らかにして行う。

(2) 知事に対する指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長への措置要請

市は、当該市の区域における国民保護措置の求めを的確かつ迅速に実施するため特

に必要があると認めるときは、知事等に対し、指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長への要請を行うよう求める。

(3) 指定公共機関、指定地方公共機関への措置要請

市は、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、関係する指定公共機関又は指定地方公共機関に対し、その業務に係る国民保護措置の実施に関し必要な要請を行う。この場合において、市は、当該機関の業務内容に照らし、要請する理由や活動内容等をできる限り明らかにする。

3 自衛隊の部隊等の派遣要請の求め等

【防災班】

①市長は、国民保護措置を円滑に実施するため必要があると認めるときは、知事に対し、自衛隊の部隊等の派遣の要請を行うよう求める（国民保護等派遣）。また、通信の途絶等により知事に対する自衛隊の部隊等の派遣の要請の求めができない場合は、直接、防衛大臣に連絡する。

なお、実務上の連絡先については、平素から市と自衛隊が調整し、確認しておく。

②市長は、国民保護等派遣を命ぜられた部隊のほか、防衛出動及び治安出動（内閣総理大臣の命令に基づく出動（自衛隊法第78条）及び知事の要請に基づく出動（自衛隊法第81条））により出動した部隊とも、市対策本部及び現地調整所において緊密な意思疎通を図る。

4 他の市町村長等に対する応援の要求、事務の委託

【防災班】

(1) 他の市町村長等への応援の要求

①市長等は、必要があると認めるときは、応援を求める理由、活動内容等を具体的に明らかにしたうえで、他の市町村長等に対して応援を求める。

②応援を求める市との間であらかじめ相互応援協定等が締結されている場合には、その相互応援協定等に基づき応援を求める。

(2) 県への応援の要求

市長等は、必要があると認めるときは、知事等に対し応援を求める。この場合、応

援を求める理由、活動内容等を具体的に明らかにする。

(3) 事務の一部の委託

①市が、国民保護措置の実施のため、事務の全部又は一部を他の地方公共団体に委託するときは、平素からの調整内容を踏まえ、以下の事項を明らかにして委託を行う。

- ・委託事務の範囲並びに委託事務の管理及び執行の方法
- ・委託事務に要する経費の支弁の方法その他必要な事項

②他の地方公共団体に対する事務の委託を行った場合、市は、上記事項を公示するとともに、県に届け出る。

また、事務の委託又は委託に係る事務の変更若しくは事務の廃止を行った場合は、市長はその内容を速やかに市議会に報告する。

5 指定行政機関の長等に対する職員の派遣要請

【防災班】

(1) 市は、国民保護措置の実施のため必要があるときは、指定行政機関の長若しくは指定地方行政機関の長又は特定指定公共機関（指定公共機関である特定独立行政法人をいう。）に対し、当該機関の職員の派遣の要請を行う。また、必要があるときは、地方自治法の規定に基づき、他の地方公共団体に対し、当該地方公共団体の職員の派遣を求める。

(2) 市は、(1)の要請を行うときは、県を経由して行う。ただし、人命の救助等のために緊急を要する場合は、直接要請を行う。また、当該要請等を行っても必要な職員の派遣が行われない場合などにおいて、国民保護措置の実施のため必要があるときは、県を経由して総務大臣に対し、(1)の職員の派遣について、あっせんを求める。

6 市の行う応援等

【防災班】

(1) 他の市町村に対して行う応援等

①市は、他の市町村から応援の求めがあった場合には、求められた応援を実施することができない場合や、他の機関が実施する国民保護措置と競合する場合など、正当な理由のある場合を除き、必要な応援を行う。

②他の市町村から国民保護措置に係る事務の委託を受けた場合、市長は、所定の事項を市議会に報告するとともに、市は公示を行い、県に届け出る。

(2) 指定公共機関又は指定地方公共機関に対して行う応援等

市は、指定公共機関又は指定地方公共機関の行う国民保護措置の実施について労務、施設、設備又は物資の確保についての応援を求められた場合には、求められた応援を実施することができない場合や、他の機関が実施する国民保護措置と競合する場合など、正当な理由のある場合を除き、必要な応援を行う。

7 ボランティア団体等に対する支援等

【防災班、市民そうだん班】

(1) 自主防災組織等に対する支援

市は、自主防災組織による警報の内容の伝達、自主防災組織や自治会長等の地域のリーダーとなる市民による避難住民等の誘導などの実施に関する協力について、その安全を十分に確保し、適切な情報の提供や、活動に対する資材の提供等により、自主防災組織に対する必要な支援を行う。

(2) ボランティア団体に対する支援

①受入窓口の開設

市は、ボランティア関係団体と相互に連絡・調整を図ったうえ、ボランティアの受入窓口を開設する。

②ボランティアの受入れ

市は、ボランティア関係団体と連携し、各避難所などのボランティアニーズ（種類、人数等）を把握し、相互に連絡・調整を図ったうえ、ボランティアの受入れができる体制の整備に努める。

③ボランティア活動への対応

ア) ボランティア関係団体からの申し出があった場合でも、活動の安全を十分に確保する必要があることから、武力攻撃事態等の発生状況を踏まえ、ボランティア活動の適否を判断する。

イ) 安全の確保が十分であると判断した場合には、次の事項に留意しながら県及びボランティア関係団体と相互に協力し、その技能の効果的な活用ができるように努める。

(ア) 被災地又は避難先地域における要望や活動状況の把握

- (イ) ボランティアへの情報提供
- (ウ) ボランティアの生活環境への配慮
- (エ) 避難所等に臨時に設置されるボランティアセンターにおけるボランティアの登録・派遣調整など、受入体制の確保

(3) 民間からの救援物資の受入れ

市は、県や関係機関等と連携し、国民、企業等からの救援物資について、受入れを希望するものを把握し、また、救援物資の受入れ、仕分け、避難所への配送等の体制の整備等を図る。

8 住民等への協力要請

【防災班】

市は、国民保護法の規定により、次に掲げる措置を行うために必要があると認める場合には、住民等に対し、必要な援助についての協力を要請する。この場合において、要請を受けて協力する者の安全の確保に十分に配慮する。

- 避難住民等の誘導
- 避難住民等の救援
- 消火、負傷者の搬送、被災者の救助その他の武力攻撃災害への対処に関する措置
- 保健衛生の確保

第4章 警報及び避難の指示等

第1 警報の伝達等

市は、武力攻撃事態等において、住民等の生命、身体及び財産を保護するため、警報の内容の迅速かつ的確な伝達及び通知を行うことが極めて重要であることから、警報の伝達及び通知等に必要な事項について、以下のとおり定める。

1 警報の内容の伝達等

【防災班、消防機関、情報管理班、広報連絡班】

(1) 警報の内容の伝達

①市は、県から警報の内容の通知を受けた場合には、あらかじめ定められた伝達方法（伝達先、手段、伝達順位）により、速やかに住民等や関係のある公私の団体（消防団、自治会、社会福祉協議会、農業協同組合、商工会議所、商工会、青年会議所、病院、学校など）に警報の内容を伝達する。

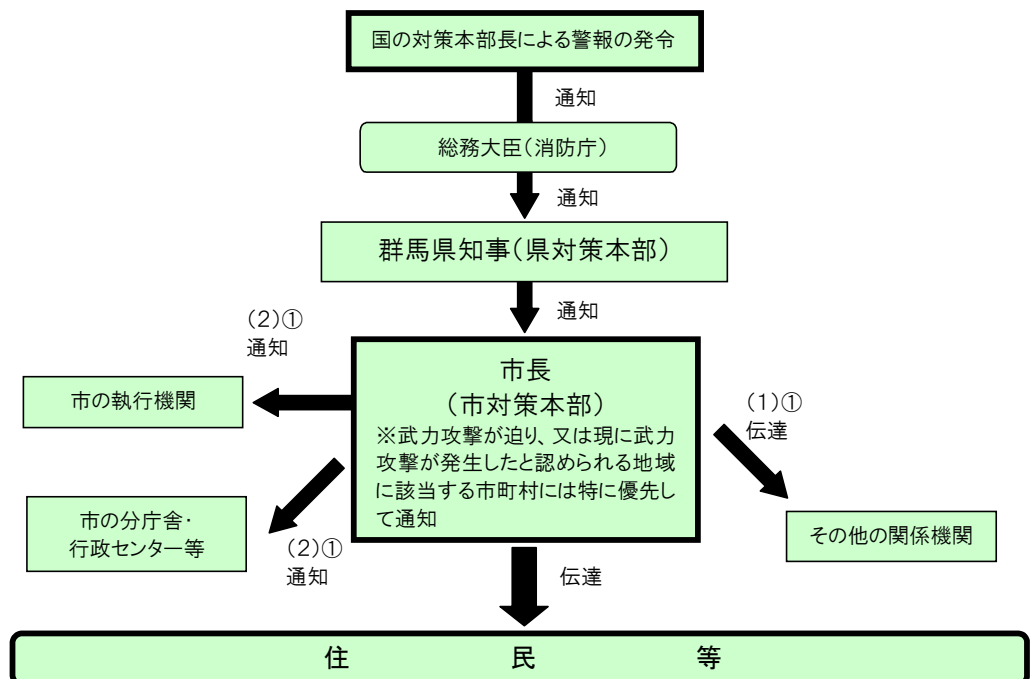
②市は、県との役割分担に応じ、県が平素から情報収集した大規模集客等施設に警報の内容を伝達する。

(2) 警報の内容の通知

①市は、当該市の他の執行機関その他の関係機関（教育委員会、保育園など）に対し、警報の内容を通知する。

②市は、警報が発令された旨の報道発表については速やかに行うとともに、市のホームページ（<https://www.city.ota.gunma.jp>）に警報の内容を掲載する。

市長から関係機関への警報の通知・伝達



※市のホームページ(<https://www.city.ota.gunma.jp>)に警報の内容を掲載する。
 ※警報の伝達に当たっては、防災行政無線のほか拡声器を活用することなどにより行う。

2 警報の内容の伝達方法

【防災班、消防機関、救護救援班】

(1) 警報の内容は、緊急情報ネットワークシステム (Em-net)、全国瞬時警報システム (J-ALERT) 等を活用し、地方公共団体に伝達される。市長は、全国瞬時警報システム (J-ALERT) と連携している情報伝達手段等により、原則として以下の要領により情報を伝達する。

① 「武力攻撃が迫り、又は現に武力攻撃が発生したと認められる地域」に市が含まれる場合

この場合においては、原則として、同報系防災行政無線等で国が定めたサイレンを最大音量で吹鳴して住民等に注意喚起した後、武力攻撃事態等において警報が発令された事実等を周知する。

② 「武力攻撃が迫り、又は現に武力攻撃が発生したと認められる地域」に市が含まれない場合

ア) この場合においては、原則として、サイレンは使用せず、防災行政無線やホームページへの掲載をはじめとする手段により、周知を図る。

イ) なお、市長が特に必要と認める場合には、サイレンを使用して住民等に周知を図る。

また、広報車の使用、消防団や自主防災組織による伝達、自治会等への協力依頼などの防災行政無線による伝達以外の方法も活用する。

※全国瞬時警報システム（J-ALERT）によって情報が伝達されなかった場合においては、緊急情報ネットワークシステム（Em-net）によって伝達された情報をホームページ等に掲載すること等により、周知を図る。

(2) 市長は、消防機関と連携し、あるいは自主防災組織等の自発的な協力を得ることなどにより、各世帯等に警報の内容を伝達することができるよう、体制を整備する。この場合において、消防本部は保有する車両・装備を有効に活用し、巡回等による伝達を行うとともに、消防団は、平素からの地域との密接なつながりを活かし、自主防災組織、自治会や避難行動要支援者等への個別の伝達を行うなど、それぞれの特性を活かした効率的な伝達が行なわれるように配慮する。

また、市は、県警察の交番、駐在所、パトカー等の勤務員による拡声機や標示を活用した警報の内容の伝達が的確かつ迅速に行われるよう、県警察と緊密な連携を図る。

(3) 警報の内容の伝達においては、特に、高齢者、障がい者、外国人等に対する伝達に配慮するものとし、具体的には、避難行動要支援者について、防災・福祉部局との連携の下で避難行動要支援者名簿を活用するなど、避難行動要支援者に迅速に正しい情報が伝達され、避難などに備えられるような体制の整備に努める。

(4) 警報の解除が県から通知された場合、発令と同様に住民等や関係団体に伝達する。
なお、原則として、サイレンは使用しないこととする。

3 緊急通報の伝達及び通知

緊急通報の住民等や関係機関への伝達・通知方法については、原則として警報の伝達・通知方法と同様とする。

第2 避難住民等の誘導等

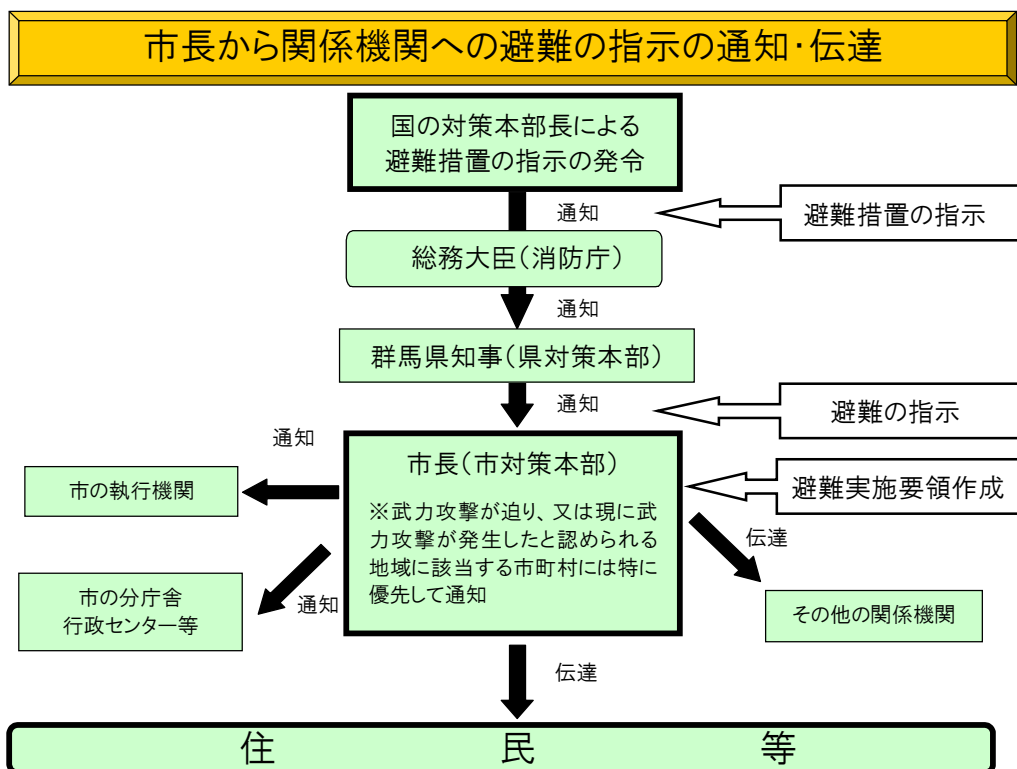
市は、県の避難の指示に基づいて、避難実施要領を作成し、避難住民等の誘導を行うこととなる。市が住民等の生命、身体、財産を守るための責務の中でも非常に重要なプロセスであることから、避難の指示の住民等への通知・伝達及び避難住民等の誘導について、以下のとおり定める。

1 避難の指示の通知・伝達

【防災班、消防機関】

- ①市長は、知事が避難の指示を迅速かつ的確に行えるよう、事態の状況を踏まえ、被災情報や現場における事態に関する情報、避難住民数、避難誘導の能力等の状況について、収集した情報を迅速に県に提供する。
- ②市長は、知事による避難の指示が行われた場合には、警報の内容の伝達に準じて、その内容を、住民等に対して迅速に伝達する。

避難の指示の流れ



※市長は、避難の指示受領後、速やかに避難実施要領を作成し、上記と同様に通知・伝達を行う

2 避難実施要領の策定

【関係各課】

(1) 避難実施要領の策定

市長は、避難の指示の通知を受けた場合は、直ちに、あらかじめ策定した避難実施要領のパターンを参考にしつつ、避難の指示の内容に応じた避難実施要領の案を作成するとともに、当該案について、各執行機関、消防機関、県、県警察、自衛隊等の関係機関の意見を聴いた上で、迅速に避難実施要領を策定する。

その際、避難実施要領の通知・伝達が避難の指示の通知後速やかに行えるようその迅速な作成に留意する。

避難の指示の内容が修正された場合又は事態の状況が変化した場合には、直ちに、避難実施要領の内容を修正する。

避難実施要領に定める事項（法定事項）

- ①避難の経路、避難の手段その他避難の方法に関する事項
- ②避難住民等の誘導の実施方法、避難住民等の誘導に係る関係職員の配置その他避難住民等の誘導に関する事項
- ③その他避難の実施に関し必要な事項

(2) 避難実施要領の作成にあたっての主な留意事項

市は、避難実施要領を作成するときは、次の点に留意する。

ただし、緊急の場合には、時間的な余裕がないことから、事態の状況等を踏まえて、法定事項を箇条書きにするなど、避難実施要領を簡潔な内容のものもありうる。

- ①避難が必要な地域の住所を可能な限り明示するとともに、自治会、町内会、事務所など、地域の実情に応じた適切な避難の実施単位を記載すること。
- ②避難先の住所や施設名を可能な限り具体的に記載すること。
- ③避難住民等の誘導や輸送の拠点となるような一時集合場所の住所や場所を可能な限り具体的に明示するとともに、集合場所への交通手段を記載すること。
- ④避難誘導の際の交通手段の出発時刻や避難誘導を開始する時間を可能な限り具体的に記載すること。
- ⑤集合後の町内会や近隣住民間での安否確認、高齢者、障がい者などへの配慮事項など、集合にあたっての避難住民等が留意すべき事項を記載すること。
なお、高齢者、障がい者などの所在を確認して避難を促すこと。

- ⑥集合後に実施する避難誘導の交通手段を明示するとともに、避難誘導の開始時間や避難経路など、避難誘導の詳細を可能な限り具体的に記載すること。
- ⑦避難住民等の避難誘導が速やかにかつ円滑に行えるよう、関係市町村職員、消防職団員の配置や担当業務を明示するとともに、その連絡先などを記載すること。
- ⑧高齢者、障がい者などの避難誘導を円滑に実施するため、対応方法を記載すること。
- ⑨避難を必要とする地域に残留者が出ないように、残留者の確認方法を記載すること。
- ⑩避難誘導中に避難住民等へ食料、水、医療、情報などを速やかにかつ適切に提供できるように、それら支援内容を記載すること。
- ⑪避難住民等の誘導を円滑に実施できるような必要最低限の携行品、服装について記載すること。
- ⑫避難誘導から離脱してしまうなど、問題が発生した際の緊急連絡先を記述すること。

(3) 避難実施要領の策定における考慮事項

避難実施要領の策定に際しては、以下の点に考慮する。

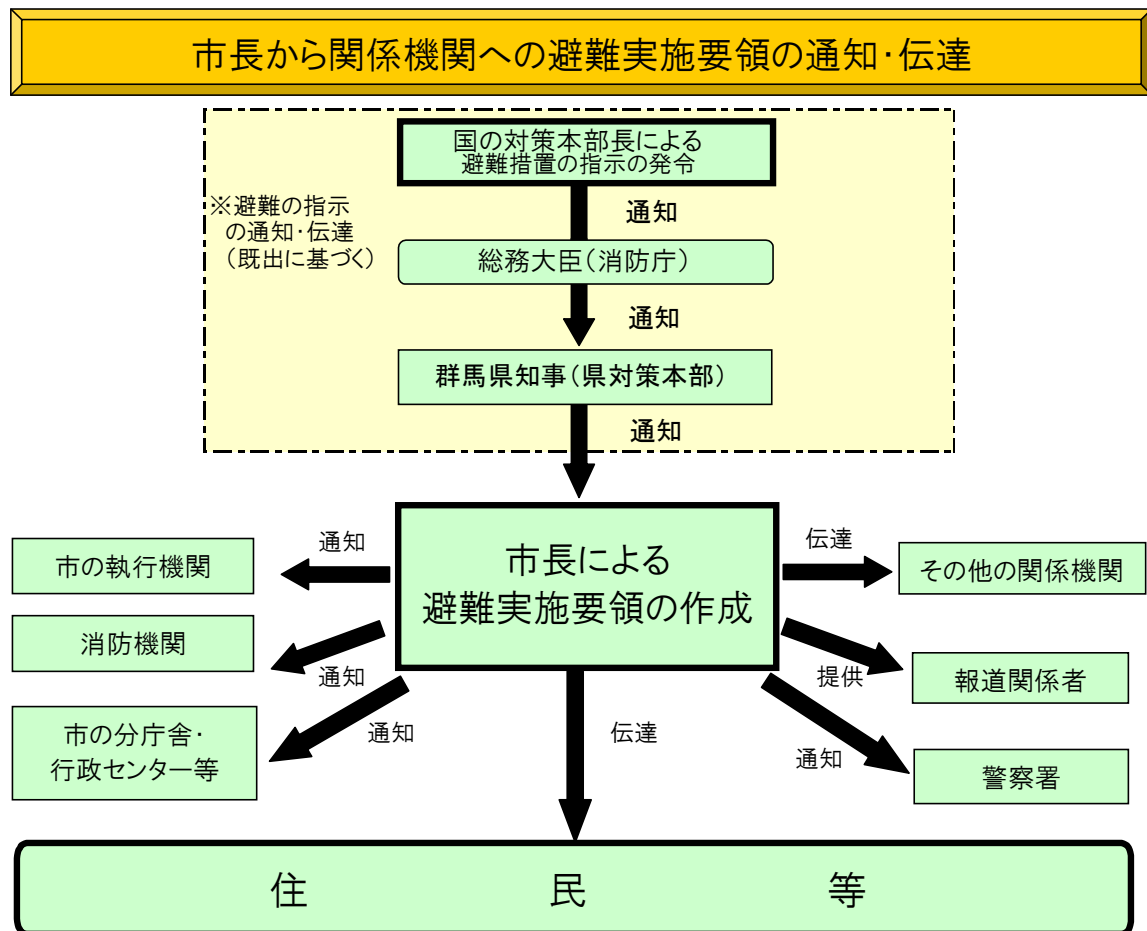
- ①避難の指示の内容の確認
(地域毎の避難の時期、優先度、避難の形態)
- ②事態の状況の把握 (警報の内容や被災情報の分析)
(特に、避難の指示以前に自主的な避難が行われる状況も勘案)
- ③避難住民等の概数把握
- ④誘導の手段の把握 (屋内避難、徒歩による移動避難、長距離避難 (運送事業者である指定地方公共機関等による輸送))
- ⑤輸送手段の確保の調整 (※ 輸送手段が必要な場合)
(県との役割分担、運送事業者との連絡網、一時避難場所の選定)
- ⑥要支援者の避難方法の決定 (避難行動要支援者名簿、避難行動要支援者支援班の設置)
- ⑦避難経路や交通規制の調整 (具体的な避難経路、県警察との避難経路の選定・自家用車等の使用に係る調整、道路の状況に係る道路管理者との調整)
- ⑧職員の配置 (各地域への職員の割り当て、現地派遣職員の選定)
- ⑨関係機関との調整 (現地調整所の設置、連絡手段の確保)
- ⑩自衛隊及び米軍の行動と避難経路や避難手段の調整 (県対策本部との調整、国の対策本部長による利用指針を踏まえた対応)

(4) 避難実施要領の内容の伝達等

市長は、避難実施要領を策定後、直ちに、その内容を、住民等や関係のある公私の団体に伝達する。その際、住民等に対しては、迅速な対応が取れるよう、各地域の住民等に関する情報を的確に伝達するように努める。

また、市長は、直ちに、その内容を当該市の他の執行機関、市の区域を管轄する消防長、警察署長及び自衛隊群馬地方協力本部長並びにその他の関係機関に通知する。

さらに、市長は、報道関係者に対して、避難実施要領の内容を提供する。



3 避難住民等の誘導

【消防機関、総務班、救護救援班、警察機関、防災班、農政総務班、土木班】

(1) 市長による避難住民等の誘導

市長は、県から避難の指示を受けたときは、避難実施要領で定めるところにより、当該市の職員並びに消防長及び消防団長を指揮し、避難住民等を誘導する。

その際、避難実施要領の内容に沿って、自治会、町内会、学校、事業所等を単位として誘導を行う。ただし、緊急の場合には、この限りではない。

また、市長は、避難実施要領に沿って、避難経路の要所要所に職員を配置して、各種の連絡調整に当たせるとともに、行政機関の車両や案内板を配置して、誘導の円滑化を図る。また、職員には、住民等に対する避難誘導活動への理解や協力を得られるよう、毅然とした態度での活動を徹底させ、防災服、腕章、旗、特殊標章等を携行させる。

なお、夜間では、暗闇の中における視界の低下により人々の不安も一層高まる傾向にあることから、避難誘導員が、避難経路の要所要所において、夜間照明（投光器具、車のヘッドライト等）を配備するなど住民等の不安軽減のため必要な措置を講ずる。

(2) 消防機関の活動

消防本部及び消防署は、消火活動及び救助・救急活動の状況を勘案しつつ、市長の定める避難実施要領に基づき、要所に消防車両等を配置し、車載の拡声器を活用する等効果的な誘導を実施するとともに、避難行動要支援者の人員輸送車両等による輸送を行う等保有する装備を有効活用した避難住民等の誘導を行う。

消防団は、消火活動及び救助・救急活動について、消防本部又は消防署と連携しつつ、自主防災組織、自治会等と連携した避難住民等の誘導を行うとともに、避難行動要支援者に関する情報の確認や要避難地域内残留者の確認等を担当する等地域とのつながりを活かした活動を行う。

(3) 避難誘導を行う関係機関との連携

市長は、避難実施要領の内容を踏まえ、当該市の職員及び消防機関のみでは十分な対応が困難であると認めるときは、警察署長又は国民保護措置の実施を命ぜられた自衛隊の部隊等の長に対して、警察官又は自衛官（以下、「警察官等」という。）による避難住民等の誘導を要請する。

また、警察官等が避難住民等の誘導を行う場合に警察署長等から協議を受けた際は、

市長は、その時点における事態の状況や避難誘導の状況に照らして、交通規制等関係機関による必要な措置が円滑に行われるよう所要の調整を行う。

これらの誘導における現場での調整を円滑に行い、事態の変化に迅速に対応できるよう、市長は、事態の規模・状況に応じて現地調整所を設け、関係機関との情報共有や活動調整を行う。

(4) 自主防災組織等に対する協力の要請

市長は、避難住民等の誘導に当たっては、自主防災組織や自治会長等の地域においてリーダーとなる市民に対して、避難住民等の誘導に必要な援助について、協力を要請する。

(5) 誘導時における食品の給与等の実施や情報の提供

市長は、避難住民等の誘導に際しては、県と連携して、食品の給与、飲料水の供給、医療の提供その他の便宜を図る。

市長は、避難住民等の心理を勘案し、避難住民等に対して、必要な情報を適時適切に提供する。その際、避難住民等の不安の軽減のために、可能な限り、事態の状況等とともに、行政側の対応についての情報を提供する。

(6) 高齢者、障がい者等への配慮

市長は、高齢者、障がい者等の避難を万全に行うため、避難行動要支援者支援班を設置し、社会福祉協議会、民生児童委員、介護保険制度関係者、障がい者団体等と協力して、避難行動要支援者への連絡、輸送手段の確保を的確に行うものとする（「避難行動要支援者名簿」を活用しながら対応を行う。その際、民生児童委員と社会福祉協議会との十分な協議のうえ、その役割を考える必要がある）。

（ゲリラ・特殊部隊による攻撃等に際しては、被害が局地的、限定的なものに留まることも多いことから、時間的余裕がなく、移動により攻撃に巻き込まれる可能性が高い場合は、屋内への避難を現実的な避難方法として検討せざるを得ない場合もあり得る。）

(7) 残留者等への対応

避難の指示に従わずに要避難地域にとどまる者に対しては、事態の状況等に関する情報に基づき丁寧な説明を行い、残留者の説得に努めるとともに、避難に伴う混雑等により危険な事態が発生する場合には、必要な警告や指示を行う。

(8) 避難所等における安全確保等

市は、県警察が行う被災地、避難所等における犯罪の予防のための活動に必要な協力をを行うとともに、県警察と協力し、住民等からの相談に対応するなど、住民等の不安の軽減に努める。

(9) 動物の保護等に関する配慮

市は、「動物の保護等に関して地方公共団体が配慮すべき事項についての基本的考え方について（平成17年8月31日付け環境省自然環境局総務課動物愛護管理室及び農林水産省生産局畜産部畜産企画課通知）」を踏まえ、以下の事項等について、県や当該地域を管轄する獣医師会、動物愛護団体、ボランティアなどの関係団体と協力して、所要の措置を講ずるよう努める。

- ・危険動物等の逸走対策
- ・要避難地域等において飼養又は保管されていた家庭動物等の保護等

(10) 通行禁止措置の周知

道路管理者たる市は、道路の通行禁止等の措置を行ったときは、県警察と協力して、直ちに、住民等に周知徹底を図るよう努める。

(11) 県に対する要請等

市長は、避難住民等の誘導に際して食料、飲料水、医療等が不足する場合には、知事に対して、必要な支援の要請を行う。

その際、特に、県による救護班等の応急医療体制との連携に注意する。

また、避難住民等の誘導に係る資源配分について他の市町村と競合するなど広域的な調整が必要な場合は、知事に対して、所要の調整を行うよう要請する。

市長は、知事から、避難住民等の誘導に関して、是正の指示があったときは、その指示の内容を踏まえて、適切な措置を講ずる。

(12) 避難住民等の輸送の求め等

市長は、避難住民等の輸送が必要な場合において、県との調整により、運送事業者である指定公共機関又は指定地方公共機関に対して、避難住民等の輸送を求める。

市長は、運送事業者である指定公共機関又は指定地方公共機関が正当な理由なく輸送の求めに応じないと認めるときは、指定公共機関にあっては、県を通じて国の対策本部長に対し、指定地方公共機関にあっては、県対策本部長に、その旨を通知する。

(13)避難住民等の復帰のための措置

市長は、避難の指示が解除された時は、避難住民等の復帰に関する要領を作成し、避難住民等を復帰させるため必要な措置を講じる。

(14)大規模集客施設等における避難

市は、大規模集客施設や旅客施設や旅客輸送関連施設の施設管理者等と連携し、施設の特性に応じ、当該施設等に滞在する者等についても、避難等の国民保護措置が円滑に実施できるよう必要な対策をとる。

4 避難住民等の受入れ

【避難所 1 班、避難所 2 班】

国からの避難に関する通知を受け、市内に避難する人を受入れる地域がある場合は、市長は、県と連携し、避難施設の開設など、受入れの準備を行う。

ゲリラ・特殊部隊による攻撃の場合

①ゲリラ・特殊部隊による攻撃においても、対策本部長の避難措置の指示及び知事による避難の指示を踏まえて、避難実施要領を策定し、迅速に避難住民等の誘導を実施することが基本である。

なお、急襲的な攻撃に際しては、避難措置の指示を待たずに、退避の指示、警戒区域の設定等を行う必要が生じるが、その際にも、事後的に避難措置の指示が出されることが基本である。

②その際、ゲリラ・特殊部隊による攻撃からの避難は、多くの場合は、攻撃の排除活動と並行して行われることが多いことから、警報の内容等とともに、現場における自衛隊及び県警察からの情報や助言等を踏まえて、最終的には、住民等を要避難地域の外に避難させることとなる。その際、武力攻撃がまさに行われており、住民等に危害が及ぶおそれがある地域については、攻撃当初は一時的に屋内に避難させ、移動の安全が確保された後、適当な避難先に移動させることが必要となる。

- ③以上から、避難実施要領の策定に当たっては、各執行機関、消防機関、県、県警察、自衛隊等の関係機関の意見を聴き、それらの機関からの情報や助言を踏まえて、避難の方法を策定することが必要であり、また、事態の変化等に機敏に対応するため、現場における関係機関の情報を共有し、関係機関からの助言に基づいた確かな措置を実施できるよう、現地調整所を設けて活動調整に当たることとする。

○避難に比較的時間に余裕がある場合の対応

「一時避難場所までの移動」～「一時避難場所からのバス等の輸送手段を用いた移動」、といった手順が一般には考えられる。

○昼間の都市部において突発的に事案が発生した場合の対応

当初の段階では、個々人がその判断により危険回避のための行動を取るとともに、県警察、消防機関、自衛隊等からの情報や助言に基づき、各地域における屋内避難や移動による避難を決定することとなる。

特にこの場合、初動時には、住民等の自主的な避難に頼らざるを得ないことから、平素から、市民が緊急時にいかに対応すべきかについて問題意識を持ってもらうことが必要である。

弾道ミサイル攻撃の場合

- ①弾道ミサイル攻撃においては、実際に弾道ミサイルが発射されたとの警報が発令されたときは、住民等は屋内に避難することが基本である。

(実際に弾道ミサイルが発射されたとの警報が発令されたときは、できるだけ近くのコンクリート造り等の堅ろうな施設や建築物の地階等の地下施設に避難することとなる。)

- ②以下の措置の流れを前提として、避難実施要領の内容は、あらかじめ出される避難措置の指示及び避難の指示に基づき、弾道ミサイルが発射された段階で迅速に個々人が対応できるよう、その取るべき行動を周知することが主な内容となる。

(弾道ミサイル攻撃の場合の措置の流れ)

- ア) 国対策本部長は、弾道ミサイルの発射が差し迫っているとの警報を発令、避難措置を指示

国対策本部長	警報の発令、避難措置の指示
	(その他、記者会見等による国民への情報提供)
知事	避難の指示
市長	避難実施要領の策定

イ) 実際に弾道ミサイルが発射されたときは、対策本部長がその都度警報を発令

弾道ミサイル攻撃については、発射の兆候を事前に察知した場合でも、発射された段階で攻撃目標を特定することは極めて困難であり、また、弾道ミサイルの主体（国又は国に準じる者）の意図等により攻撃目標は変化するとともに、その保有する弾道ミサイルの精度により、実際の着弾地点は変わってくる。

このため、市は、弾道ミサイル発射時に住民が適切な行動をとることができるよう、全国瞬時警報システム（J-ALERT）による情報伝達及び弾道ミサイル落下時の行動について平素から周知に努めるとともに、弾道ミサイルが発射された場合には、すべての市町村に着弾の可能性があり得るものとして、対応を考える必要がある。

また、急襲的に航空攻撃が行われる場合についても、弾道ミサイルの場合と同様の対応をとるものとする。

着上陸侵攻の場合

大規模な着上陸侵攻やその前提となる反復した航空攻撃等の本格的な侵略事態に伴う避難については、事前の準備が可能である一方、国民保護措置を実施すべき地域が広範囲となり、県の区域を越える避難に伴う我が国全体としての調整等が必要となり、国の総合的な方針を待って対応することが必要となる。

このため、着上陸侵攻に伴う避難は、事態発生時における国の総合的な方針に基づき避難を行うことを基本として、平素からかかる避難を想定した具体的な対応については、定めることはしない。

第5章 救援

1 救援の実施

【消防機関、医療防疫班、市民班、建築指導班、建設班、学校教育班、総務管理班】

(1) 救援の実施

市長は、知事から実施すべき措置の内容及び期間の通知があったときは、次に掲げる措置のうちで実施することとされた救援に関する措置を関係機関の協力を得て行う。

- ①収容施設の供与
- ②食品・飲料水及び生活必需品等の給与又は貸与
- ③医療の提供及び助産
- ④被災者の捜索及び救出
- ⑤埋葬及び火葬
- ⑥電話その他の通信設備の提供
- ⑦武力攻撃災害を受けた住宅の応急修理
- ⑧学用品の給与
- ⑨死体の捜索及び処理
- ⑩武力攻撃災害によって住居又はその周辺に運び込まれた土石、竹木等で、日常生活に著しい支障を及ぼしているものの除去

(2) 救援の補助

市長は、上記で実施することとされた措置を除き、知事が実施する措置の補助を行う。

(3) 着上陸侵攻への対応

大規模な着上陸侵攻やその前提となる反復した航空機攻撃等の本格的な侵略事態における救援については、避難措置の指示の場合と同様、国の総合的な方針を踏まえて行うことが基本である。このため、平素から、大規模な着上陸侵攻にかかる救援を想定した具体的な対応を決めておくことは困難である。

2 関係機関との連携

【防災班、救護救援班】

(1) 県への要請等

市長は、事務の委任を受けた場合において、救援を実施するために必要と判断したときは、知事に対して国及び他の県に支援を求めるよう、具体的な支援内容を示して要請する。

(2) 他の市町村との連携

市長は、事務の委任を受けた場合において、救援を実施するために必要と判断したときは、知事に対し、県内の他の市町村との調整を行うよう要請する。

(3) 日本赤十字社との連携

市長は、事務の委任を受けた場合において、知事が日本赤十字社に委託した救援の措置又はその応援の内容を踏まえ、日本赤十字社と連携しながら救援の措置を実施する。

(4) 緊急物資の運送の求め

市長は、運送事業者である指定公共機関又は指定地方公共機関に対し、緊急物資の運送を求める場合は、避難住民等の輸送の求めに準じて行う。

3 救援の内容

【消防機関、医療防疫班】

(1) 救援の基準等

市長は、事務の委任を受けた場合は、「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律による救援の程度及び方法の基準」（平成25年内閣府省告示第229号。以下「救援の程度及び基準」という。）及び県国民保護計画の内容に基づき救援の措置を行う。

市長は、「救援の程度及び基準」によっては救援の適切な実施が困難であると判断する場合には、知事に対し、内閣総理大臣に特別な基準の設定についての意見を申し出るよう要請する。

(2) 救援における県との連携

市長は、知事が集約し、所有している資料の提供を求めるなどにより平素から準備した基礎的な資料を参考にしつつ、市対策本部内に集約された情報をもとに、救援に

関する措置を実施する。

また、都道府県と連携して、NBCR攻撃による特殊な医療活動の実施に留意する。

4 救援物資等の確保

【防災班】

(1) 救援物資の売渡要請等

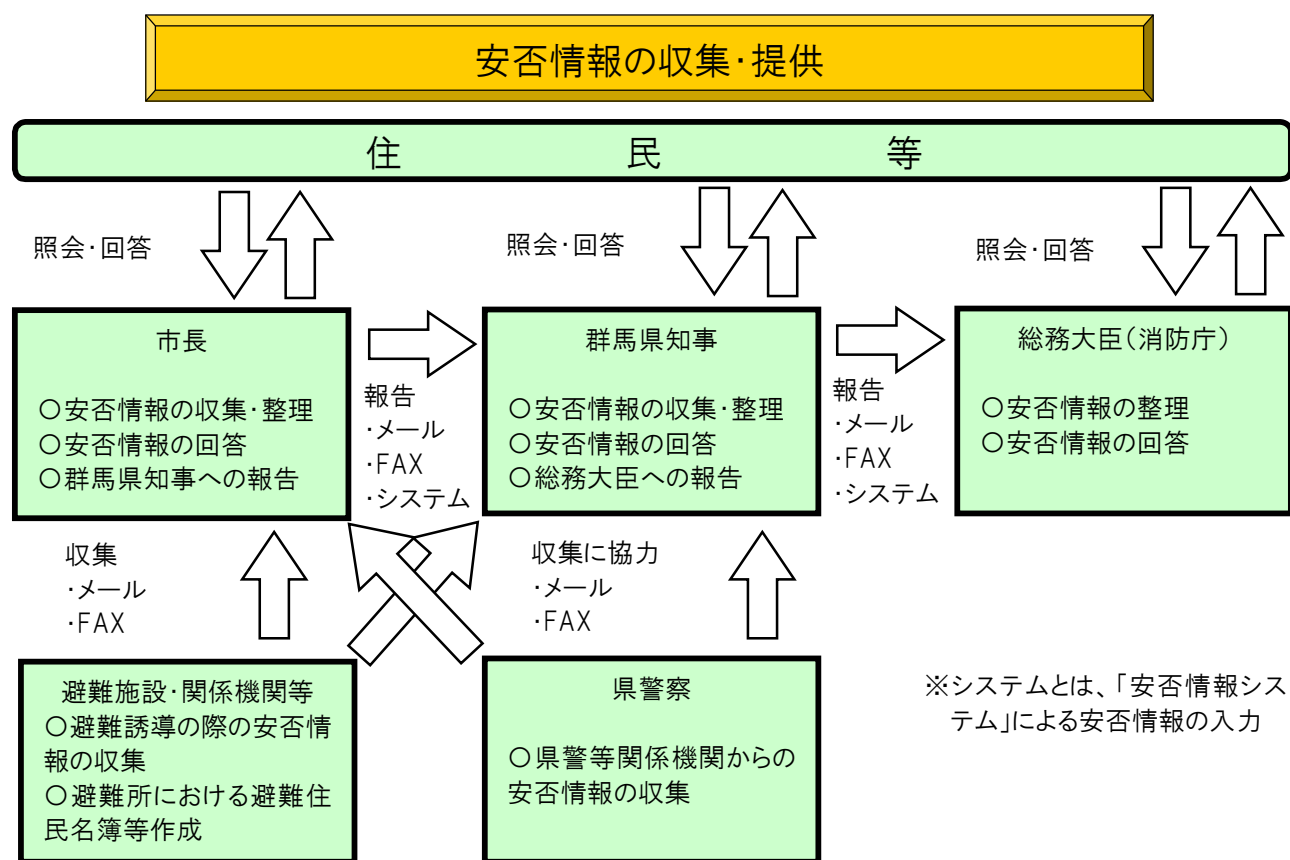
市は、県からの要請があり、救援を行うための緊急性ややむを得ない場合と認めるときは、政令で定める公用令書を交付して次の措置を実施する。

- ①救援の実施に必要な食品、医薬品、寝具、その他（医療機器その他衛生用品、飲料水、被服その他生活必需品、建設資材、燃料等）の物資であって、生産、集荷、販売、配給、保管又は輸送事業者が取り扱う物資（以下「特定物資」という。）について、その所有者に対する特定物資の売り渡しの要請
- ②①の売り渡しの要請に対し、正当な理由がないにもかかわらずその所有者が応じない場合の特定物資の収用
- ③特定物資を確保するための保管命令
- ④避難施設や臨時の医療施設を開設するための土地や建物の使用（原則土地や建物の所有者及び占有者の同意が必要）
- ⑤特定物資の収用、保管命令、土地や建物の使用に必要な立入検査
- ⑥特定物資の保管を命じた事業者に対する報告の求め及び保管状況の検査

第6章 安否情報の収集・提供

市は、安否情報の収集及び提供を行うに当たっては、他の国民保護措置の実施状況を勘案のうえ、その緊急性や必要性を踏まえて行うものとし、安否情報の収集、整理及び報告並びに照会への回答について必要な事項を以下のとおり定める。

※ 安否情報の収集、整理及び提供の流れを図示すれば、下記のとおりである。



1 安否情報の収集

【避難所1班、避難所2班、防災班】

(1) 安否情報の収集

市は、避難所において安否情報の収集を行うほか、市内にある医療機関、諸学校、大規模事業所等からの情報収集、県警察への照会などにより安否情報の収集を行う。

また、安否情報の収集は、避難所において、避難住民等から任意で収集した情報のほか、住民基本台帳等の市が平素から行政事務の円滑な遂行のために保有する情報等を活用して行う。

なお、市は、やむを得ない場合を除き、避難住民等及び負傷した住民等の安否情報については、安否情報省令に規定する様式第1号の収集様式により、死亡した住民等の安否情報については、様式第2号により情報を収集することとする。

(2) 安否情報収集の協力要請

市は、安否情報を保有する運送機関、医療機関、報道機関等の関係機関に対し、必要な範囲において、安否情報の提供への協力を行うよう要請する場合は、当該協力は各機関の業務の範囲内で行われるものであり、当該協力は各機関の自主的な判断に基づくものであることに留意する。

(3) 安否情報の整理

市は、自ら収集した安否情報について、できる限り重複を排除し、情報の正確性の確保を図るよう努める。この場合において、重複している情報や必ずしも真偽が定かでない情報についても、その旨がわかるように整理しておく。

2 県に対する報告

【防災班】

市は、県への報告に当たっては、原則として、安否情報システムを使用する。システムが使用できない場合は、安否情報省令第2条に規定する様式第3号（資料編P9）に必要事項を記載した書面（電磁的記録を含む。）を、電子メールで県に送付する。ただし、事態が急迫してこれらの方法によることができない場合は、口頭や電話などでの報告を行う。

3 安否情報の照会に対する回答

【防災班、市民班】

(1) 安否情報の照会の受付

- ①市は、安否情報の照会窓口、電話及びFAX番号、メールアドレスについて、市対策本部を設置すると同時に住民等に周知する。

②住民等からの安否情報の照会については、原則として市対策本部に設置する対応窓口にて、安否情報省令に規定する様式第4号（資料編P10）に必要事項を記載した書面を提出することにより受け付ける。ただし、安否情報の照会を緊急に行う必要がある場合や照会をしようとする者が遠隔地に居住している場合など、書面の提出によることができない場合は、口頭や電話、電子メールなどでの照会も受け付ける。

③安否情報の照会に当たっては、本人確認等を行うため、照会者に対し、本人であることを証明する書類（運転免許証、健康保険の被保険証、マイナンバーカード等）を照会窓口において提出又は提示させることとする。
ただし、やむを得ない理由により当該書類を提出又は提示できない場合、若しくは電話、電子メールなどの方法により照会があった場合においては、市長は、照会者の住所地市町村が保有する住民基本台帳と、照会者の住所、氏名、生年月日及び性別を照合することにより、本人確認を行うこととする。

④市は、他の市町村から、照会者の本人確認を行うための問い合わせを受けた場合は、これに協力するものとする。

(2) 安否情報の回答

①市は、当該照会に係る者の安否情報を保有及び整理している場合には、安否情報の照会を行う者の本人確認等を行うこと等により、当該照会が不当な目的によるものではなく、また、照会に対する回答により知り得た事項を不当な目的に使用されるおそれがないと認めるときは、安否情報省令第4条に規定する様式第5号により、当該照会に係る者が避難住民等に該当するか否か及び武力攻撃災害により死亡し、又は負傷しているか否かの別を回答する。

②市は、照会に係る者の同意があるとき又は公益上特に必要があると認めるときは、照会をしようとする者が必要とする安否情報に応じ、必要と考えられる安否情報項目を様式第5号により回答する。

③市は、安否情報の回答を行った場合には、当該回答を行った担当者、回答の相手の氏名や連絡先等を把握する。

(3) 個人の情報の保護への配慮

①安否情報は個人の情報であることにかんがみ、その取扱いについては十分留意す

べきことを職員に周知徹底するなど、安否情報データの管理を徹底する。

- ②安否情報の回答に当たっては、必要最小限の情報の回答にとどめるものとし、負傷又は疾病の状況の詳細、死亡の状況等個人情報の保護の観点から特に留意が必要な情報については、安否情報回答責任者が判断する。

4 日本赤十字社に対する協力

【企画班、救護救援班、市民班】

市は、日本赤十字社群馬県支部の要請があったときは、当該要請に応じ、その保有する外国人に関する安否情報を提供する。

当該安否情報の提供に当たっても、3（2）、（3）と同様に、個人の情報の保護に配慮しつつ、情報の提供を行う。

第7章 武力攻撃災害への対処

第1 武力攻撃災害への対処

市は、武力攻撃災害への対処においては、災害現場における通常への対応とともに、特殊な武力攻撃災害への対応、活動時の安全の確保に留意しながら他の機関との連携のもとで活動を行う必要があり、武力攻撃災害への対処に関して基本的な事項を、以下のとおり定める。

1 武力攻撃災害への対処の基本的考え方

【防災班】

(1) 武力攻撃災害への対処

市長は、国や県等の関係機関と協力して、当該市の区域に係る武力攻撃災害への対処のために必要な措置を講ずる。

(2) 知事への措置要請

市長は、武力攻撃災害への対処に関する措置を講ずる場合において、武力攻撃により多数の死者が発生した場合や、NBCR攻撃による災害が発生し、国民保護措置を講ずるため高度な専門知識、訓練を受けた人員、特殊な装備等が必要となる場合など、市長が武力攻撃災害を防除し、及び軽減することが困難であると認めるときは、知事に対し、必要な措置の実施を要請する。

(3) 対処にあたる職員の安全の確保

市は、武力攻撃災害への対処措置に従事する職員について、必要な情報の提供や防護服の着用等の安全の確保のための措置を講ずる。

2 武力攻撃災害の兆候の通報

【防災班、消防機関】

(1) 市長への通報

消防吏員は、武力攻撃に伴って発生する火災や堤防の決壊、毒素等による動物の大量死、不発弾の発見などの武力攻撃災害の兆候を発見した者から通報を受けたときは、速やかに、その旨を市長に通報する。

(2) 知事への通知

市長は、武力攻撃災害の兆候を発見した者、消防吏員、警察官から通報を受けた場合において、武力攻撃災害が発生するおそれがあり、これに対処する必要があると認めるときは、速やかにその旨を知事に通知する。

第2 応急措置等

市は、武力攻撃災害が発生した場合において、特に必要があると認めるときは、自らの判断に基づき、退避の指示や警戒区域の設定を行うことが必要であり、それぞれの措置の実施に必要な事項について、以下のとおり定める。

1 退避の指示

【防災班、消防機関、警察機関、総務班】

(1) 退避の指示

市長は、武力攻撃災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、特に必要があると認めるときは、住民等に対し退避の指示を行う。

この場合において、退避の指示に際し、必要により現地調整所を設けて（又は、関係機関により設置されている場合には、職員を早急に派遣し）、関係機関との情報の共有や活動内容の調整を行う。

※【退避の指示（一例）】

- ・「〇〇町×丁目、△△町〇丁目」地区の住民等については、外での移動に危険が生じるため、近隣の堅牢な建物や地下街など屋内に一時退避すること。
- ・「〇〇町×丁目、△△町〇丁目」地区の住民等については、〇〇地区の△△（一時）避難場所へ退避すること。

(2) 屋内退避の指示について

市長は、住民等に退避の指示を行う場合において、その場から移動するよりも、屋内に留まる方がより危険性が少ないと考えられるときには、「屋内への退避」を指示する。「屋内への退避」は、次のような場合に行うものとする。

- ①NBCR攻撃と判断されるような場合において、住民等が何ら防護手段なく移動するよりも、屋内の外気から接触が少ない場所に留まる方がより危険性が少ないと考えられるとき
- ②敵のゲリラや特殊部隊が隠密に行動し、その行動の実態等についての情報がない場合において、屋外で移動するよりも屋内に留まる方が不要の攻撃に巻き込まれるおそれが少ないと考えられるとき

(3) 退避の指示に伴う措置等

①市は、退避の指示を行ったときは、緊急速報メール、広報車等により速やかに住民等に伝達するとともに、放送事業者に対してその内容を連絡する。また、退避の指示の内容等について、知事に通知を行う。
退避の必要がなくなったとして、指示を解除した場合も同様に伝達等を行う。

②市長は、知事、警察官又は自衛官から退避の指示をした旨の通知を受けた場合は、退避の指示を行った理由、指示の内容等について情報の共有を図り、退避の実施に伴い必要な活動について調整及び協力を行う。

(4) 安全の確保等

①市長は、退避の指示を住民等に伝達する市の職員に対して、二次被害が生じないよう国及び県からの情報や市で把握した武力攻撃災害の状況、関係機関の活動状況等についての最新情報を共有するほか、消防機関及び県警察等と現地調整所等において連携を密にし、活動時の安全の確保に配慮する。

②市の職員及び消防職団員が退避の指示に係る地域において活動する際には、市長は、必要に応じて県警察、自衛隊の意見を聞くなど安全確認を行ったうえで活動させるとともに、各職員が最新の情報を入手できるよう緊急の連絡手段を確保し、また、地域からの退避方法等の確認を行う。

③市長は、退避の指示を行う市の職員に対して、武力攻撃事態等においては、必ず特殊標章等を交付し、着用させる。

2 警戒区域の設定

【防災班、警察機関】

(1) 警戒区域の設定

市長は、武力攻撃災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合において、住民等からの通報内容、関係機関からの情報提供、現地調整所等における関係機関の助言等から判断し、住民等の生命又は身体に対する危険を防止するため特に必要があると認めるときは、警戒区域の設定を行う。

(2) 警戒区域の設定に伴う措置等

- ①市長は、警戒区域の設定に際しては、市対策本部に集約された情報のほか、現地調整所における県警察、自衛隊からの助言を踏まえて、その範囲等を決定する。
また、事態の状況の変化等を踏まえて、警戒区域の範囲の変更等を行う。
NBCR攻撃等により汚染された可能性のある地域については、専門的な知見や装備等を有する機関に対して、必要な情報の提供を求め、その助言を踏まえて区域を設定する。
- ②市長は、警戒区域の設定にあたっては、ロープ、標示板等で区域を明示し、広報車等を活用し、住民等に広報・周知する。また、放送事業者に対してその内容を連絡する。
武力攻撃災害への対処に関する措置を講ずる者以外の者に対し、当該区域への立入りを制限し、若しくは禁止し、又は当該区域からの退去を命ずる。
- ③警戒区域内では、交通の要所に職員を配置し、県警察、消防機関等と連携して、車両及び住民等が立ち入らないよう必要な措置を講ずるとともに、不測の事態に迅速に対応できるよう現地調整所等における関係機関との情報共有にもとづき、緊急時の連絡体制を確保する。
- ④市長は、知事、警察官又は自衛官から警戒区域の設定を行った旨の通知を受けた場合は、警戒区域を設定する理由、設定範囲等について情報の共有を図り、警戒区域設定に伴い必要な活動について調整及び協力を行う。

(3) 安全の確保

市長は、警戒区域の設定を行った場合についても、退避の指示の場合と同様、区域内で活動する職員の安全の確保を図る。

3 応急公用負担等

【防災班】

(1) 市長の事前措置

市長は、武力攻撃災害が発生するおそれがあるときは、武力攻撃災害を拡大させるおそれがあると認められる設備又は物件の占有者、所有者又は管理者に対し、災害拡大防止のために必要な限度において、当該設備又は物件の除去、保安その他必要な措置を講ずべきことを指示する。

(2) 応急公用負担

市長は、武力攻撃災害への対処に関する措置を講ずるため緊急の必要があると認めるときは、次に掲げる措置を講ずる。

- ①他人の土地、建物その他の工作物の一時使用又は土石、竹木その他の物件の使用若しくは収用
- ②武力攻撃災害を受けた現場の工作物又は物件で当該武力攻撃災害への対処に関する措置の実施の支障となるものの除去その他必要な措置（工作物等を除去したときは、保管）

4 消防に関する措置等

【消防機関】

(1) 市が行う措置

市長は、消防機関による武力攻撃災害への対処措置が適切に行われるよう、武力攻撃等や被害情報の早急な把握に努めるとともに、県警察等と連携し、効率的かつ安全な活動が行われるよう必要な措置を講じる。

(2) 消防機関の活動

消防機関は、その施設及び人員を活用して、国民保護法のほか、消防組織法、消防法その他の法令に基づき、武力攻撃災害から住民等を保護するため、消防職団員の活動上の安全確保に配意しつつ、消火活動及び救助・救急活動等を行い、武力攻撃災害を防除し、及び軽減する。

この場合において、消防本部及び消防署は、その装備・資機材・人員・技能等を活用し武力攻撃災害への対処を行うとともに、消防団は、消防長又は消防署長の所轄の下で、消防団が保有する装備・資機材等の活動能力に応じ地域の実状に即した活動を行う。

(3) 消防相互応援協定等に基づく応援要請

市長は、当該市の区域内の消防力のみをもってしては対処できないと判断した場合は、知事又は他の市町村長に対し、相互応援協定等に基づく消防の応援要請を行う。

(4) 緊急消防援助隊等の応援要請

市長は、(3)による消防の応援のみでは十分な対応が取れないと判断した場合又は武力攻撃災害の規模等に照らし緊急を要するなど必要と判断した場合は、緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画及び緊急消防援助隊運用要綱に基づき、知事を通じ又は、必要に応じ、直接に消防庁長官に対し、緊急消防援助隊等による消火活動及び救助・救急活動の応援等を要請する。

(5) 消防の応援の受入れ体制の確立

市長は、消防に関する応援要請を行ったとき及び消防庁長官の指示により緊急消防援助隊の出動に関する指示が行われた場合、これらの消防部隊の応援が円滑かつ適切に行なわれるよう、知事と連携し、出動部隊に関する情報を収集するとともに、進出拠点等に関する調整や指揮体制の確立を図るなど消防の応援の受入れに関して必要な事項の調整を行う。

(6) 消防の相互応援に関する出動

市長は、他の被災市町村の長から相互応援協定等に基づく応援要請があった場合及び消防庁長官による緊急消防援助隊等の出動指示があった場合に伴う消防の応援を迅速かつ円滑に実施するために、武力攻撃災害の発生状況を考慮し、知事との連絡体制を確保するとともに、消防長と連携し、出動可能な消防部隊の把握を行うなど、消防の応援出動等のための必要な措置を行う。

(7) 医療機関との連携

市長は、消防機関とともに、搬送先の選定、搬送先への被害情報の提供、トリアージの実施等について医療機関と緊密な連携のとれた活動を行う。

(8) 安全の確保

①市長は、消火活動及び救助・救急活動等を行う要員に対し、二次被害を生じることがないように、国対策本部及び県対策本部からの情報を市対策本部に集約し、全ての最新情報を提供するとともに、県警察等との連携した活動体制を確立するなど、安全の確保のための必要な措置を行う。

②その際、市長は、必要により現地に職員を派遣し、消防機関、県警察、自衛隊等と共に現地調整所を設けて、各機関の情報の共有、連絡調整にあたらせるとともに、市対策本部との連絡を確保させるなど安全の確保のための必要な措置を行う。

- ③被災地以外の市長は、知事又は消防庁長官から消防の応援等の指示を受けたときは、武力攻撃の状況及び予測、武力攻撃災害の状況、災害の種別、防護可能な資機材、設備、薬剤等に関する情報を収集するとともに、出動する要員に対し情報の提供及び支援を行う。
- ④消防団は、施設・装備・資機材及び通常の活動体制を考慮し、災害現場においては、消防本部と連携し、その活動支援を行うなど団員に危険が及ばない範囲に限定して活動する。
- ⑤市長、消防長又は水防管理者は、特に現場で活動する消防職団員、水防団員等に対し、必ず特殊標章等を交付し着用させるものとする。

第3 生活関連等施設における災害への対処等

市は、生活関連等施設などの特殊な対応が必要となる施設について、国の方針に基づき必要な対処が行えるよう、国、県その他の関係機関と連携した市の対処に関して、以下のとおり定める。

1 生活関連等施設の安全確保

【公共施設管理者】

(1) 生活関連等施設の状況の把握

市は、市対策本部を設置した場合には、市内に所在する生活関連等施設の安全に関する情報、各施設における対応状況等の必要な情報を収集する。

(2) 消防機関による支援

消防機関は、生活関連等施設の管理者から支援の求めがあったときは、指導、助言、連絡体制の強化、資機材の提供、職員の派遣など、可能な限り必要な支援を行う。また、自ら必要があると認めるときも、同様とする。

(3) 市が管理する施設の安全の確保

市長は、市が管理する生活関連等施設について、当該施設の管理者としての立場から、安全確保のために必要な措置を行う。

この場合において、市長は、必要に応じ、県警察、消防機関その他の行政機関に対し、支援を求める。

また、このほか、生活関連等施設以外の市が管理する施設についても、生活関連等施設における対応を参考にして、可能な範囲で警備の強化等の措置を講ずる。

(一部事務組合を構成して生活関連等施設を管理している場合、市は、他の構成市町村及び当該一部事務組合と連携して、警備の強化等の措置を講じる。)

2 危険物質等に係る武力攻撃災害の防止及び防除

【危険物取扱者】

(1) 危険物質等に関する措置命令

市長は、危険物質等に係る武力攻撃災害の発生を防止するため緊急の必要があると認めるときは、危険物質等の取扱者に対し、武力攻撃災害発生防止のための必要な措

置を講ずべきことを命ずる。

なお、避難住民等の輸送などの措置において当該物質等が必要となる場合は、関係機関と市対策本部で所要の調整を行う。

【危険物質等について市長が命ずることができる対象及び措置】

下欄の○は、国民保護法第103条第3項により、当該措置の権限が与えられていることを意味し、それ以外の記述は、当該措置の権限を与えている既存の個別法を意味する。

物質の種類	区 分	国民保護法 第103条第3項 (措置)		
		1号	2号	3号
消防法（昭和23年法律第186号）第2条第7項の危険物	消防法第11条第1項第1号の消防本部等所在市の区域に設置される製造所、貯蔵所若しくは取扱所（移送取扱所を除く。）又は一の消防本部等所在市の区域のみに設置される移送取扱所において貯蔵し、又は取り扱うもの	消防法第十二条の三	○	○

※ 上の表に掲げる、国民保護法第103条第3項第1号から第3号の措置は、それぞれ下記のとおり。

1号 危険物質等の取扱所の全部又は一部の使用の一時停止又は制限

2号 危険物質等の製造、引渡し、貯蔵、移動、運搬又は消費の一時禁止又は制限

3号 危険物質等の所在場所の変更又はその廃棄

(2) 警備の強化及び危険物質等の管理状況報告

市長は、危険物質等の取扱者に対し、必要があると認めるときは、警備の強化を求める。また、市長は、(1)の1号から3号の措置を講ずるために必要があると認める場合は、危険物質等の取扱者から危険物質等の管理の状況について報告を求める。

第4 N B C R攻撃による災害への対処等

市は、N B C R攻撃による災害への対処については、国の方針に基づき必要な措置を講ずる。このため、N B C R攻撃による災害への対処にあたり必要な事項について、以下のとおり定める。

1 N B C R攻撃に対する応急措置の実施

【防災班、消防機関、警察機関、県、医療機関】

(1) N B C R攻撃に対する応急措置の実施

市は、N B C R攻撃による汚染が生じた場合の対処について、国による基本的な方針を踏まえた対応を行うことを基本としつつ、災害が発生した直後の応急措置や状況に応じた対応については、県国民保護計画に準じ、次のとおり対処する。

①連絡体制及び初動体制

関係機関（市、県、県警察、消防機関、医療機関）は、自衛隊と協力しつつ、相互の連絡体制を整備し、連絡窓口などに変更があった場合は、速やかに相互に変更点を連絡することとする。

N B C R攻撃の疑いや、それらの攻撃の連絡を受けた機関は、速やかに他の関係機関にその内容を連絡することとする。

②現場における応急措置の実施

市長は、N B C R攻撃が行われた場合は、応急措置を行う現地関係機関同士の情報の共有、役割分担、被害状況の広報の協議及び調整を行い、相互の円滑な連携を確保する。

市長は、被害現場周辺の状況の変化に応じて、現場及び汚染が拡大すると予想される地域の住民等に対し、応急措置として、退避を指示し、又は警戒区域を設定する。

県警察は、関係機関とともに、交通の規制、被災者の救助などの活動を行うこととする。

③汚染物質の特定における連携

ア) 汚染物質の特定

市長は、汚染物質の特定については、県警察において応急的に汚染物質の鑑

定を行うとともに、県警察だけで鑑定できない場合には、県衛生環境研究所において鑑定を実施する。

県警察及び消防機関の職員は、それぞれが保有する検知資機材を用いて、現場において汚染物質の特定に努める。

イ) 汚染物質の特定にあたっての情報交換

各関係機関は、現場の被害状況や被害者の言動などの情報、被害者の搬送中の症状などについて、県警察に連絡する。

医療機関は、受け入れた被害者の症状について、関係機関相互に連絡する。

各関係機関は、被害者の血液、吐しゃ物などの検体を入手した場合、鑑定機関に送付し検査及び分析を行う。

ウ) 特定された後の情報伝達

鑑定機関によって汚染物質が特定された場合や、何らかの情報が判明した場合は、速やかに各関係機関に連絡し、情報の共有化を図る。

(2) 要員の安全の確保

市長は、NBCR攻撃を受けた場合、武力攻撃災害の状況等の情報を現地調整所や県から積極的に収集し、当該情報を速やかに提供するなどにより、応急対策を講ずる要員の安全の確保に配慮する。

2 汚染原因に応じた対応

【防災班、医療防疫班、環境班、消防機関、警察機関】

(1) 基本的な対応

市は、NBCR攻撃が発生した場合の対応は、それぞれの汚染原因に応じて、国（厚生労働省及び農林水産省等）及び県との連携の下、それぞれ次の点に留意して措置を講ずる。

①核攻撃等の場合

市は、核攻撃等による災害が発生した場合、国の対策本部による汚染範囲の特定を補助するため、汚染の範囲特定に資する被災情報を県に直ちに報告する。

また、措置にあたる要員に防護服を着用させるとともに、被ばく線量の管理を行いつつ、活動を実施させる。

②生物剤による攻撃の場合

市は、措置にあたる要員に防護服を着用させるとともに、関係機関が行う汚染の

原因物質の特定等に資する情報収集などの活動を行う。

③化学剤による攻撃の場合

市は、措置にあたる要員に防護服を着用させるとともに、関係機関が行う原因物質の特定、汚染地域の範囲の特定、被災者の救助及び除染等に資する情報収集などの活動を行う。

【生物剤を用いた攻撃の場合における対応】

天然痘等の生物剤は、人に知られることなく散布することが可能であり、また、発症するまでの潜伏期間に感染者が移動することにより、生物剤が散布されたと判明したときには既に被害が拡大している可能性がある。生物剤を用いた攻撃については、こうした特殊性にかんがみ、特に留意が必要である。

このため、市の国民保護担当部署においては、生物剤を用いた攻撃の特殊性に留意しつつ、生物剤の散布等による攻撃の状況について、通常の被害の状況等の把握の方法とは異なる点にかんがみ、保健衛生担当部署等と緊密な連絡を取り合い、厚生労働省を中心とした一元的情報収集、データ解析等サーベランス（疾病監視）による感染源及び汚染地域への作業に協力することとする。

(2) 市長の権限

市長は、知事から汚染の拡大を防止するため協力の要請があったときは、措置の実施にあたり、県警察等関係機関と調整しつつ、次の表に掲げる権限を行使する。

	対象物件等	措置
1号	飲食物、衣類、寝具その他の物件	占有者に対し、以下を命ずる。 ・移動の制限 ・移動の禁止 ・廃棄
2号	生活の用に供する水	管理者に対し、以下を命ずる。 ・使用の制限又は禁止 ・給水の制限又は禁止
3号	死体	・移動の制限 ・移動の禁止
4号	飲食物、衣類、寝具その他の物件	・廃棄

5号	建物	<ul style="list-style-type: none"> ・立入りの制限 ・立入りの禁止 ・封鎖
6号	場所	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の制限 ・交通の遮断

市長は、上記表中の第1号から第4号までに掲げる権限を行使するときは、当該措置の名あて人に対し、次の表に掲げる事項を通知する。ただし、差し迫った必要があるときは、当該措置を講じた後、相当の期間内に、同事項を当該措置の名あて人（上記表中の占有者、管理者等）に通知する。

上記表中第5号及び第6号に掲げる権限を行使するときは、適当な場所に次の表に掲げる事項を掲示する。ただし、差し迫った必要があるときは、その職員が現場で指示を行う。

1	当該措置を講ずる旨
2	当該措置を講ずる理由
3	当該措置の対象となる物件、生活の用に供する水又は死体（上記表中第5号及び第6号に掲げる権限を行使する場合にあっては、当該措置の対象となる建物又は場所）
4	当該措置を講ずる時期
5	当該措置の内容

(3) 土地等への立ち入り

市長は、(1)の措置を行うために必要があるときは、措置にあたる職員に、土地、建物その他の工作物などへの立ち入らせることができる。

なお、他人の土地などへ立ち入ろうとする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者の請求があった場合はこれを提示する。

3 国の対策本部等との緊密な連携

【防災班】

(1) 国の方針に基づく措置の実施

市は、内閣総理大臣が、関係大臣を指揮して、汚染拡大防止のための措置を講ずる場合においては、内閣総理大臣の基本的な方針及びそれに基づく各省庁における活動内容について、県を通じて国から必要な情報を入手するとともに、当該方針に基づいて、所要の措置を講ずる。

(2) 関係機関との連携

市長は、NBCR攻撃が行われた場合は、市対策本部において、消防機関、県警察、自衛隊、医療関係機関等から被害に関する情報や関係機関の有する専門的知見、対処能力等に関する情報を共有し、必要な対処を行う。

その際、必要により現地調整所を設置し（又は職員を参画させ）、現場における関係機関の活動調整の円滑化を図るとともに、市長は、現地調整所の職員から最新の情報についての報告を受けて、当該情報をもとに、県に対して必要な資機材や応援等の要請を行う。

第8章 被災情報の収集及び報告

【防災班】

市は、被災情報を収集するとともに、知事に報告することとされていることから、被災情報の収集及び報告にあたり必要な事項について、以下のとおり定める。

○被災情報の収集及び報告

- ①市は、電話、市防災行政無線その他の通信手段により、武力攻撃災害が発生した日時及び場所又は地域、発生した武力攻撃災害の状況の概要、人的及び物的被害の状況等の被災情報について収集する。
- ②市は、情報収集にあたっては消防機関、県警察等との連絡を密にするとともに、特に消防機関は、機動的な情報収集活動を行うため、必要に応じ消防車両等を活用した情報の収集を行う。
- ③市は、被災情報の収集にあたっては、県を経由して消防庁に対し即報要領に基づき、電子メール、FAX等により直ちに被災情報の第一報を報告する。
- ④市は、第一報を県を経由して消防庁に報告した後も、随時被災情報の収集に努めるとともに、収集した情報についてあらかじめ定めた様式に従い、電子メール、FAX等により県が指定する時間に県に対し報告する。
なお、新たに重大な被害が発生した場合など、市長が必要と判断した場合には、直ちに、即報要領に基づき、県を経由して消防庁に報告する。

第9章 保健衛生の確保その他の措置

市は、避難所等の保健衛生の確保を図り、武力攻撃災害により発生した廃棄物の処理を適切かつ迅速に行うことが重要であることから、保健衛生の確保その他の措置に必要な事項について、以下のとおり定める。

1 保健衛生の確保

【医療防疫班、環境班、群馬東部水道企業団】

市は、避難先地域における避難住民等についての状況等を把握し、その状況に応じて、市防災計画に準じて、次に掲げる措置を実施する。

(1) 保健衛生対策

市は、避難先地域において、県と連携し医師等保健医療関係者による健康相談、指導等を実施する。

この場合において、高齢者、障がい者その他特に配慮を要する者の心身双方の健康状態には特段の配慮を行う。

(2) 防疫対策

市は、避難住民等が生活環境の悪化、病原体に対する抵抗力の低下による感染症等の発生を防ぐため、県等と連携し感染症予防のための啓発、健康診断及び消毒等の措置を実施する。

(3) 食品衛生確保対策

市は、避難先地域における食中毒等の防止をするため、県と連携し、食品等の衛生確保のための措置を実施する。

(4) 飲料水衛生確保対策

①市及び群馬東部水道企業団は、避難先地域における感染症等の防止をするため、県と連携し、飲料水確保、飲料水の衛生確保のための措置及び飲料水に関して保健衛生上留意すべき事項等についての住民等に対して情報提供を実施する。

②市及び群馬東部水道企業団は、市防災計画の定めに基づいて、水道水の供給体制を整備する。

- ③市及び群馬東部水道企業団は、水道施設の被害状況の把握を行うとともに、供給能力が不足する、または不足すると予想される場合については、県に対して水道用水の緊急応援にかかる要請を行う。

(5) 栄養指導対策

市は、避難先地域の住民等の健康維持のため、栄養管理、栄養相談及び指導を県と連携し実施する。

2 廃棄物の処理

【清掃事業班、太田市外三町広域清掃組合】

(1) 廃棄物処理の特例

①市は、環境大臣が指定する特例地域においては、県と連携し「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく廃棄物処理業の許可を受けていない者に対して、必要に応じ、環境大臣が定める特例基準に定めるところにより、廃棄物の収集、運搬又は処分を業として行わせる。

②市は、①により廃棄物の収集、運搬又は処分を業として行う者により特例基準に適合しない廃棄物の収集、運搬又は処分が行われたことが判明したときは、速やかにその者に対し、期限を定めて廃棄物の収集、運搬又は処分の方法の変更その他の必要な措置を講ずべきことを指示するなど、特例基準に従うよう指導する。

(2) 廃棄物処理対策

①市は、市防災計画の定めに準じて、「震災廃棄物対策指針」（平成10年厚生省生活衛生局作成）等を参考としつつ、廃棄物処理体制を整備する。

②市は、廃棄物関連施設などの被害状況の把握を行うとともに、処理能力が不足する、または不足すると予想される場合については、県に対して他の市町村との応援等にかかる要請を行う。

第 10 章 国民生活の安定に関する措置

市は、武力攻撃事態等においては、水の安定的な供給等を実施することから、国民生活の安定に関する措置について、以下のとおり定める。

1 生活関連物資等の価格安定

市は、武力攻撃事態等において、物価の安定を図り、住民等の生活との関連性が高い物資若しくは役務又は経済活動上重要な物資若しくは役務（以下「生活関連物資等」という。）の適切な供給を図るとともに、価格の高騰や買占め及び売惜しみを防止するために県等の関係機関が実施する措置に協力する。

2 避難住民等の生活安定等

【教育総務班、学校教育班、調査班】

(1) 被災児童生徒等に対する教育

市教育委員会は、県教育委員会と連携し、被災した児童生徒等に対する教育に支障が生じないようにするため、避難先での学習機会の確保、学用品の給与、授業料の減免、奨学金の貸与、被災による生活困窮家庭の児童生徒等に対する就学援助等を行うとともに、学校施設等の応急復旧等を関係機関と連携し、適切な措置を講ずる。

(2) 税の徴収猶予及び減免等

市は、被災者の負担軽減のため、法律及び条例の定めるところにより、市税に関する申告、申請及び請求等の書類、納付または納入に関する期間の延期並びに市税(延滞金を含む)の徴収猶予及び減免の措置を災害の状況に応じて実施する。

3 生活基盤等の確保

【群馬東部水道企業団、復旧班、公共施設管理者】

(1) 水の安定的な供給

市は、群馬東部水道企業団に対し、消毒その他衛生上の措置、被害状況に応じた送水停止等、武力攻撃事態等において水を安定的かつ適切に供給するために必要な措置を講ずるよう要請する。

(2) 公共的施設の適切な管理

道路等の管理者として市は、当該公共的施設を適切に管理する。

4 支援措置の広報

【広報連絡班】

市は被災者及び事業者の自立に対する援助、助成措置について、広報に努める。

第 1 1 章 特殊標章等の交付及び管理

【防災班、総務班】

市は、ジュネーブ諸条約及び第一追加議定書に規定する特殊標章及び身分証明書（以下「特殊標章等」という。）を交付及び管理することとなるため、これらの標章等の適切な交付及び管理に必要な事項について、以下のとおり定める。

※ 特殊標章等の意義について

1949年8月12日のジュネーブ諸条約の国際的な武力紛争の犠牲者の保護に関する追加議定書（第一追加議定書）において規定される国際的な特殊標章等は、国民保護措置に係る職務、業務又は協力（以下この章において「職務等」という。）を行う者及びこれらの者が行う職務等に使用される場所若しくは車両、船舶、航空機等（以下この章において「場所等」という。）を識別するために使用することができ、それらは、ジュネーブ諸条約及び第一追加議定書の規定に従って保護される。

(1) 特殊標章等

ア) 特殊標章

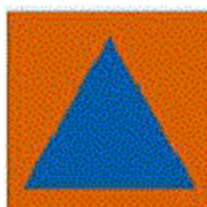
第一追加議定書第66条3に規定される国際的な特殊標章（オレンジ色地に青の正三角形）。

イ) 身分証明書



第一追加議定書第66条3に規定される身分証明書（様式のひな型は下記のとおり。）。

ウ) 識別対象

国民保護措置に係る職務等を行う者、国民保護措置に係る協力等のために使用される場所等。



（オレンジ色地に
青の正三角形）

表面		裏面	
	この標章を交付等 する許可権者の名を記 載するための余地		身長の長 Height _____ 目の色 Eyes _____ 星の色 Star _____
身分証明書 IDENTITY CARD 国民保護措置に係る職務等を行う者用 for civil defence personnel		その他の特徴又は情報/Other distinguishing marks or information: 国籍 Nationality _____ _____ _____	
氏名 Name _____ 生年月日 Date of birth _____ この証明書の所持者は、次の資格において、1949年8月12日のジュネーブ諸条約及び1949年8月12日のジュネーブ諸条約の国際的な武力紛争の犠牲者の保護に関する追加議定書（議定書1）によって保護される。 The holder of this card is protected by the Geneva Conventions of 12 August 1949 and by the Protocol Additional to the Geneva Conventions of 12 August 1949, and relating to the Protection of Victims of International Armed Conflicts (Protocol II) in his capacity as _____		所持者の写真 PHOTO OF HOLDER	
交付等の年月日 Date of issue _____ 発行番号 No. of card _____ 許可権者の署名 Signature of issuing authority _____ 有効期限の満了日 Date of expiry _____		印鑑 Stamp _____	所持者の署名 Signature of holder _____

（日本工業規格A7（横74ミリメートル、縦105ミリメートル））

（身分証明書のひな型）

(2) 特殊標章等の交付及び管理

市長は、「赤十字標章等及び特殊標章等に係る事務の運用に関するガイドライン（平成17年8月2日閣副安危第321号内閣官房副長官補（安全保障・危機管理担当）付内閣参事官（事態法制担当）通知」に基づき、具体的な交付要綱を作成したうえで、それぞれ以下に示す職員等に対し、特殊標章等を交付及び使用させる。

- ・市の職員（消防長の所轄の職員を除く。）で国民保護措置に係る職務を行う者
- ・消防団長及び消防団員
- ・市長の委託により国民保護措置に係る業務を行う者
- ・市長が実施する国民保護措置の実施に必要な援助について協力をする者

(3) 特殊標章等に係る普及啓発

市は、国、県及びその他関係機関と協力しつつ、特殊標章等及び赤十字標章等の意義及びその使用にあたっての濫用防止について、教育や学習の場などの様々な機会を通じて啓発に努める。

第4編 復旧等

第1章 応急の復旧

市は、その管理する施設及び設備について、武力攻撃災害による被害が発生したときは、一時的な修繕や補修など応急の復旧のため必要な措置を講じることとし、応急の復旧に関して必要な事項について、以下のとおり定める。

1 基本的考え方

【防災班、総務班、公共施設管理者】

(1) 市が管理する施設及び設備の緊急点検等

市は、武力攻撃災害が発生した場合には、安全の確保をしたうえでその管理する施設及び設備の被害状況について緊急点検を実施するとともに、被害の拡大防止及び被災者の生活確保を最優先に応急の復旧を行う。

(2) 通信機器の応急の復旧

市は、武力攻撃災害の発生により、防災行政無線等関係機関との通信機器に被害が発生した場合には、予備機への切替等を行うとともに、保守要員により速やかな復旧措置を講ずる。また、復旧措置を講じてもおお障害がある場合は、他の通信手段により関係機関との連絡を行うものとし、直ちに総務省にその状況を連絡する。

(3) 県に対する支援要請

市は、応急の復旧のための措置を講ずるにあたり必要があると認める場合には、県に対し、それぞれ必要な人員や資機材の提供、技術的助言その他必要な措置に関し支援を求める。

2 公共的施設の応急の復旧

【公共施設管理者、土木班、防災班】

- (1) 市は、武力攻撃災害が発生した場合には、市が管理するライフライン施設について、速やかに被害の状況を把握するとともに、被害の状況に応じて、応急の復旧のための措置を講ずる。

- (2) 市は、武力攻撃災害が発生した場合には、その管理する道路について、速やかに被害の状況を把握し、その状況を県に報告するとともに、被害の状況に応じて、障害物の除去その他避難住民等の運送等の輸送の確保に必要な応急の復旧のための措置を講ずる。

第2章 武力攻撃災害の復旧

【復旧関係班、防災班】

市は、その管理する施設及び設備について、武力攻撃災害による被害が発生したときは、武力攻撃災害の復旧を行うこととし、武力攻撃災害の復旧に関して必要な事項について、以下のとおり定める。

(1) 国における所要の法制の整備等

武力攻撃災害が発生したときは、国において財政上の措置その他本格的な復旧に向けた所要の法制が整備されるとともに、特に、大規模な武力攻撃災害が発生したときは、本格的な復旧に向けての国全体としての方向性について速やかに検討することとされており、市は、武力攻撃災害の復旧について、国が示す方針にしたがって県と連携して実施する。

(2) 市が管理する施設及び設備の復旧

市は、武力攻撃災害により市の管理する施設及び設備が被災した場合は、被災の状況、周辺地域の状況等を勘案しつつ迅速な復旧を行う。また、必要があると判断するときは、地域の実情等を勘案し、県と連携して、当面の復旧の方向を定める。

第3章 国民保護措置に要した費用の支弁等

市が国民保護措置の実施に要した費用については、原則として国が負担することとされており、国民保護措置に要した費用の支弁等に関する手続等に必要な事項について、以下のとおり定める。

1 国民保護措置に要した費用の支弁、国への負担金の請求

【防災班、会計班】

(1) 国に対する負担金の請求方法

市は、国民保護措置の実施に要した費用で市が支弁したものについては、国民保護法により原則として国が負担することとされていることから、別途国が定めるところにより、国に対し負担金の請求を行う。

(2) 関係書類の保管

市は、武力攻撃事態等において、国民保護措置の実施に要する費用の支出にあたっては、その支出額を証明する書類等を保管する。

2 損失補償及び損害補償

【防災班】

(1) 損失補償

市は、国民保護法に基づく土地等の一部使用等の行政処分を行った結果、通常生ずべき損失については、国民保護法施行令に定める手続等に従い、補償を行う。

(2) 損害補償

市は、国民保護措置の実施について援助を要請し、その要請を受けて協力をした者がそのために死傷したときは、国民保護法施行令に定める手続等に従い損害補償を行う。

3 総合調整及び指示に係る損失の補てん

【防災班】

市は、県の対策本部長が総合調整を行い、又は避難住民等の誘導若しくは避難住民等の輸送に係る指示をした場合において、当該総合調整又は指示に基づく措置の実施にあたって損失を受けたときは、国民保護法施行令に定める手続に従い、県に対して損失の請求を行う。

ただし、市の責めに帰すべき事由により損失が生じたときは、この限りではない。

第5編 緊急対処事態への対処

1 緊急対処事態

市国民保護計画が対象として想定する緊急対処事態については、第1編第5章2に掲げるとおりである。

市は、緊急対処事態は、原則として、武力攻撃事態等におけるゲリラや特殊部隊による攻撃等と類似の事態が想定されるため、緊急対処事態対策本部の設置や緊急対処保護措置の実施などの緊急対処事態への対処については、警報の通知及び伝達を除き、原則として武力攻撃事態等への対処に準じて行う。

2 緊急対処事態における警報の通知及び伝達

緊急対処事態においては、国の対策本部長により、攻撃の被害又はその影響の及ぶ範囲を勘案して、警報の内容の通知・伝達の対象となる地域の範囲が決定されることを踏まえ、市は、緊急対処事態における警報については、その内容を通知及び伝達の対象となる地域を管轄する機関及び当該地域に所在する施設の管理者等に対し通知及び伝達を行う。

緊急対処事態における警報の内容の通知及び伝達については、上記によるほか、武力攻撃事態等における警報の内容の通知及び伝達に準じて、これを行う。

第6編 首都圏等への支援

首都圏で大規模な武力攻撃災害等が発生した場合や、武力攻撃事態等が長期にわたるような場合には、大量の避難住民等の発生が想定される。

このような状況が発生したとき、群馬県は、首都圏の外縁部にありながら、首都東京から概ね100kmの圏内に位置し、新幹線や高速道路などの高速交通網で直結されているという地理的条件を生かして、太田市は、首都圏住民等の避難先地域として、積極的に協力・支援に努める。

具体的には、首都圏から避難してくる住民等の人数や避難の方法など県が把握した情報を共有し、市内における避難住民等の受入能力、避難経路の状況などを考え合わせながら、県と連携して協力・支援に努める。

このため、日頃から県との連携に努め、県域を越える避難住民等の受入れ体制の整備に努める。

なお、隣接県において同様の状況が発生した場合にも、同様に協力・支援に努める。

太田市国民保護計画

2024年5月

発行・編集 太田市 総務部 危機管理室

太田市浜町2番35号

0276-47-1111 (代表)
